

WILCOMM

Complete User Manual for:

✦ ウィルフォームス
✦ フィールドマッパー
✦ ディストリビューション
ウィザード

DES001 (Last Update : 2002/5/14)

© Copyright 1999
Wilkinson Computer Services Pty Ltd



1. 概要	3
1.01 処理概要	3
1.02 設定方法	4
1.03 ウィルフォームについて	5
1.04 ウィルフォームの主要機能（画面）の抜粋	5
2. フォームの新規作成	8
2.01 新しいフォームの設定	9
2.02 フィールドの作成	15
3. フィールドマッパー概要	23
3.01 マッピング（配置）の定義	23
3.02 テーブル上のフィールドのマッピング（配置）について	27
3.03 条件付き印刷	29
4. ディストリビューションウィザード概要	36
4.01 事前準備項目	36
4.02 セクションの作成	37
4.03 Data Conditions（データ条件）	42
4.04 サービスの定義	45
4.05 サービスの定義（印刷&ファックス）	51
4.06 優先順位の設定	56
4.07 セクションの変更	58

ウィルコムフォームシステム（ウィルフォームス）

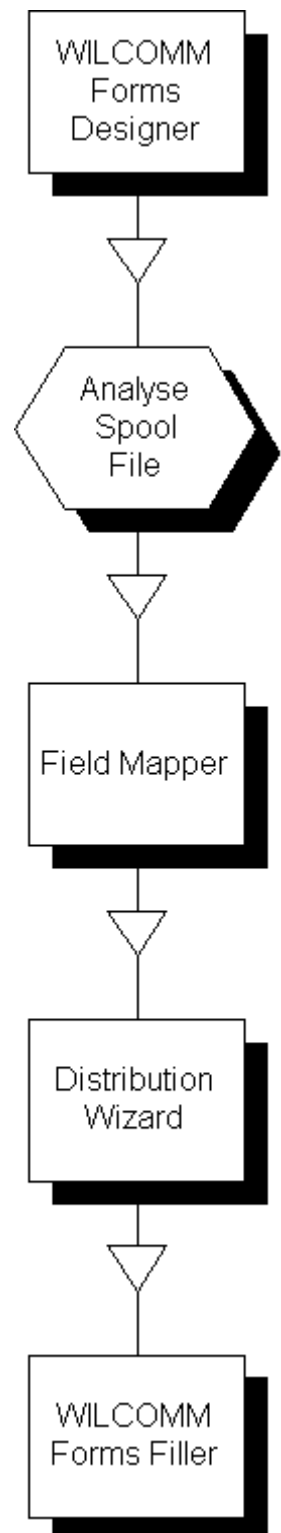
1. 概要

ウィルコムは AS400 上で作成されたテキスト形式の帳票と PC 上作成された高品質なフォーム（帳票イメージ）を自動的に重ね合わせる（マッピング）機能を備えています。また、この機能はファックス送信、メールへ添付する際にも拡張して使用することができます。

以下の章を参照することによりウィルコムフォームシステムの概要の理解、導入が容易となります。

1.01 処理概要

1. 先ずウィルコムフォームデザイナーを使用して PC 上にフォームを作成します。フォームデザイナーは、ウィルコムのグループ製品でより効果的、機能的、高品質なフォームをわずかな時間で作成することができます。フォームの作成は2つのステップより構成されています。ここではその最初のステップとして罫線、ロゴ、ヘダー情報などを配置するレイアウトの作成を行います
2. 作成されたレイアウト上にスプールファイルの印字項目と同じ数だけフィールドを作成し、それぞれに名前を付けます。
3. フィールドマッパーを使用してスプールファイルと上記で作成されたフォームの配置に関する関連付けを行います。
4. ディストリビューションウィザードを使用してスプールページ毎にどのような配布方法を選択するかを定義します。（例：プリンターへの出力、ファックス送信、メールへの添付）また、それぞれどのフォームと重ね合わせるか、カバーページ添付するか等の関連情報も定義します。ディストリビューションウィザードで定義された内容は全てディストリビューションディレクターというファイルに保管されます。
5. AS400からのスプール情報ならびに送信メッセージはディストリビューションウィザードを経由してそれぞれウィルコムの各モジュールへと（ウィルプリント、メール、ファックス）渡されます。
6. スプール情報ならびに送信メッセージは自動的に上記ステップで作成されたフォームと重ね合わせられ、それぞれの配布方法に従って処理されます。
7. 送信結果（成功/失敗、接続状態）はウィルコムサーバーによりそれぞれのモジュールより集められ AS 側のウィルコムへ報告されます。AS 側ではその情報をメッセージリストを見ることにより確認できます。



8. AS 側のウィルコムでは自動的に次の送信メッセージをウィルコムサーバーへ転送します。（詳細についてはウィルコム AS のユーザーガイドを参照して下さい。）
- ・スプールファイルインターフェースで作成されたメッセージ
 - ・API によって作成されたメッセージ
 - ・ウィルスパールによって作成されたメッセージ
 - ・ウィルコムテキストエディターによって作成されたメッセージ
 - ・アウトキューインターセプターによって作成されたメッセージ

1.02 設定方法

新しいフォームを作成するための概略について下記を参照して下さい。（詳細については後述を参照して下さい。）

1. ウィルコムフォームデザイナーを使用してレイアウトを作成します。（フォームの新規作成の項参照）
2. 作成されたレイアウト上で使用されるフィールドの名前付けを行います。次に **ファイル変数の抽出** というオプションを実行します。
3. ウィルスパールユーティリティーを使用して重ね合わせ（マッピング）のサンプルとして使用するスプールファイルをウィルコムサーバーへコピーします。（詳細については、ウィルコム AS のユーザーガイドを参照して下さい。）

コピー方法は、まず、AS400 のコマンドラインから WILSPOOL と入力し実行キーを押します。スプールファイルのリストが画面に表示されますので、サンプルとして使用するスプールファイルのオプションの欄に **"M"** (M = Map) と入力して実行キーを押します。プロンプトが表示されますのでそこでこのサンプルのスプールファイルに名前を付けます。ここでは仮に **INVOICE** という名前にします。処理が終了すると直ちに選択されたスプールファイルはウィルコムサーバー上の **\\Wilcomm\F3Forms\Sample Spool Files** というディレクトリーに転送されます。ファイルの拡張子は **.MAP** が用いられます。

例：INVOICE.Map.

4. 次にフィールドマッパーを使用してサーバー上に転送されたサンプルのスプールファイルをどのようにフォームと重ね合わせるか定義します。定義はスプールファイル上の該当領域をマウスで囲み、右クリックして表示されたフィールド名を選択することにより作成されます。全てのフォント、カラーが使用できます。また条件付印刷（転送されるスプールファイルのデータにより印刷をコントロール）の設定も容易に行えます。（例：合計を印字する行が固定でない場合などにその行のみ太字で印刷をする）
5. ディストリビューションウィザードを駆使することにより業務上発生するスプールファイルのあらゆる配布要求にも容易に対応することが可能です。

1.03 ウィルフォームについて

ウィルフォームは非常に柔軟性の高いツールです。本マニュアルの内容は全て本体ソフトのCDに同梱されています。

ドキュメンテーションファイル\F3Forms\Books directory というディレクトリーに、またチュートリアルについては\F3Forms\Tutor というディレクトリーにアドビ社のPDF形式にてインストールされます。それぞれ印刷し、初期段階のトレーニング、本番稼働後のマニュアルとしてご使用下さい。フォームの作成をウィルコム正規代理店に依頼する場合はこのドキュメントの印刷は不要です。.

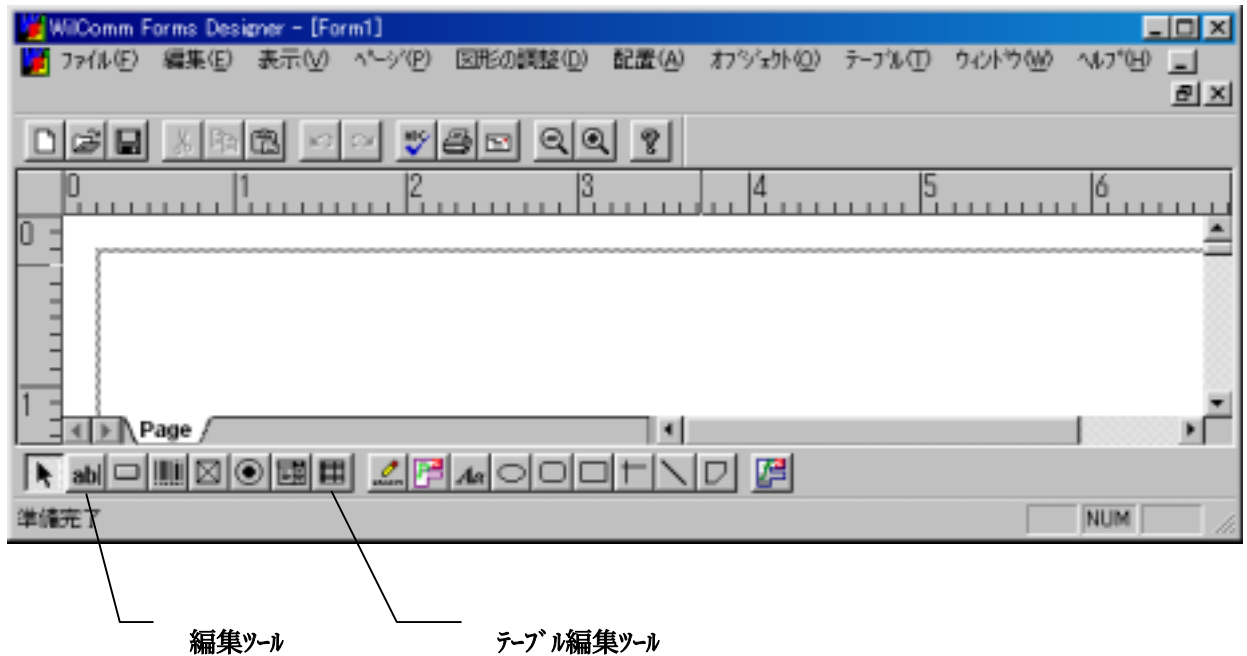
1.04 ウィルフォームの主要機能（画面）の抜粋

(1) フィールドの作成

ウィルフォームではレイアウトを作成し、そのレイアウト上にフィールドを作成してゆきます。このフィールドの位置にスプールファイルの各項目が印刷されます。

注： ウィルフォームにはフィールドを作成するための、また、その作成を補助するためのツールが沢山含まれています。トレーニングをより効果的にするためにも**編集ツール**と**テーブル編集ツール**の自習をお勧めします。

下記画面を参照して下さい。前述の2つのツールは画面下方のツールバー上に常時表示されます。**編集ツール**は左から2番目の"**ab|**"というボタン、**テーブル編集ツール**は同じく左から8番目に表示されています。

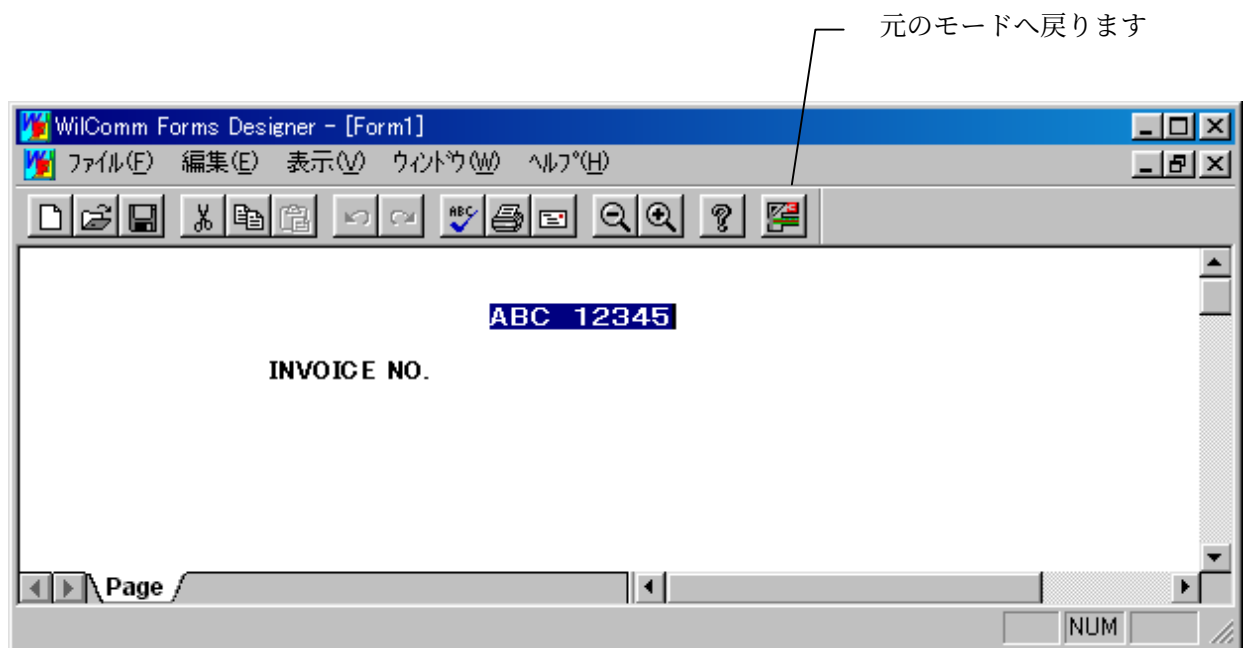


ツールバーの右半分には罫線を引いたり、外枠を作成したりテキストを挿入したりするツールが用意されてます。**編集ツール (ab|)** はフィールドを定義するためのツールです。テキスト（タイトル等）の入力にはツールバー中央の見出し設定ツール (**Aa** というボタン)を使用して下さい。

(2) フィラーモード (テストデータ表示モード)

ツールバー上の "F" というボタンはモードをフィラーモードへ変更するためのボタンです。このモードはテストデータなどを作成されたレイアウトに実際に印字して配置具合を確認するために使用されます。

テストデータの入力はフィラーモード上で直接データを入力する方法と、フィールドを定義する際に初期値を設定するという2つの方法があります。後者の場合にはプロパティ名前 / 編集 / オプション の順に選択し、テストデータを入力します。



この例では INVOICE NO. の印字位置がやや高めとなっています。このようにテストデータを入力して実際の印字位置を確認するためにフィラーモードを使用します。元のモードへ戻るには、画面上部のツールバーの一番右側の "F" のボタンを選択します。

表示位置の確認が済んだら必ず、プロパティ名前 / 編集 / オプション の “自動入力なし” を選択して下さい。選択しないまま印刷を実行すると入力したテストデータが実データに混じって印刷されてしまいます。

2. フォームの新規作成

新規フォームの作成の第一ステップは、どのようなデザインを採用するかを確定させることです。

ウィルフォームでは、フィールドならびにキャラクターの表示属性は全て自由に設定できます。

既存の帳票と同じものを作成する場合はその帳票をご用意下さい。（データが印字されているもの）新規に作成される場合にはスケッチ等を事前に準備されることをお勧めします。

フォームの作成は次の2つのステップより構成されています。

1: レイアウト作成

外枠、罫線、ロゴ、テキスト（ヘダー）情報を配置します。

2: インテリジェント・レイヤー

スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を表示するフィールドを作成します。

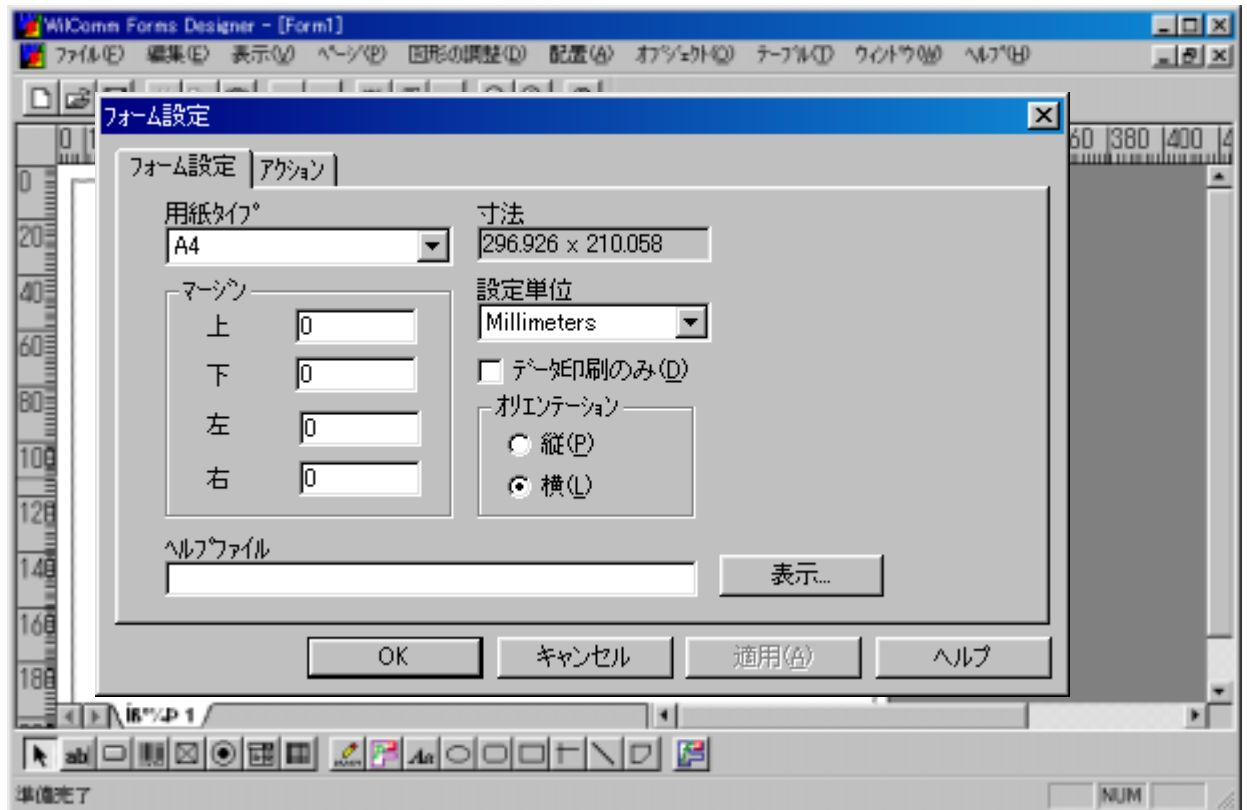
例：invoice data.

作成したフォームは頻繁にバックアップをとって下さい。！

2.01 新しいフォームの設定

ウィルフォームのアイコンをクリックすると新規フォームの作成画面が表示されます。

ファイル/フォーム設定をクリックします。用紙タイプを確認して下さい。デフォルト値はA4です。次に設定単位を millimeters へ変更します。用紙サイズを指定し（縦書き or 横書き）、灰色の外枠を削除するために全てのマージンを0にします。



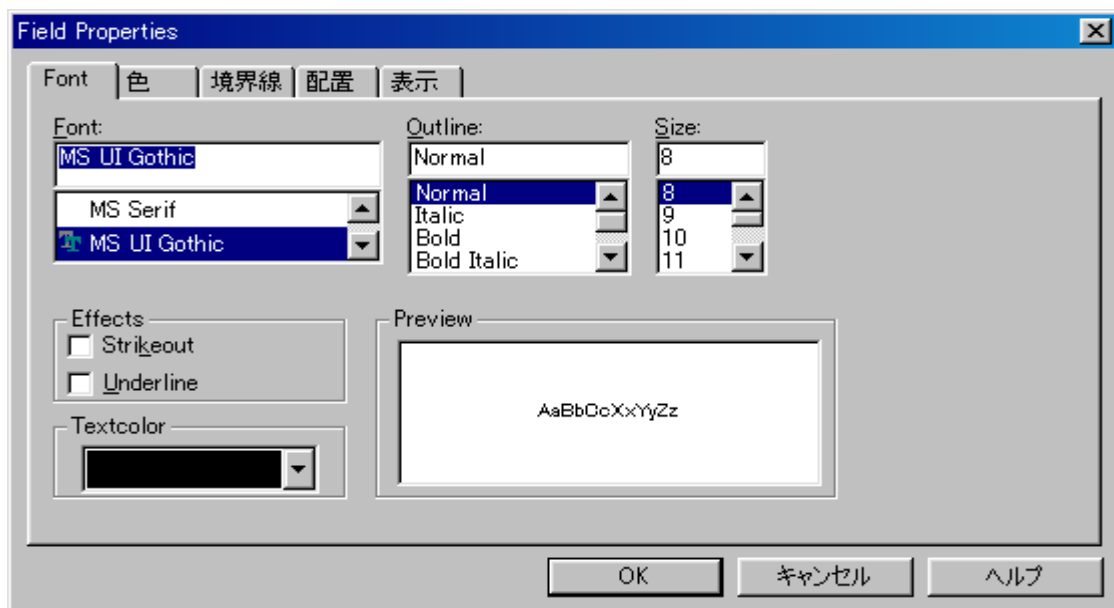
OK をクリックします。

新しいフォームの設定での注意

リストボックス上に表示されないフォント・サイズの設定方法

リストボックス上に表示されないフォント・サイズ（7以下）を設定するには、下記のように行います。

対象フィールドのプロパティを開きます。（ダブルクリックまたは
[オブジェクト]－[プロパティ]を実行）



まず、タブシート“Font”以外の設定を行います。

最後にタブシート“Font”を開き、Sizeの入力（手入力）をします。

[OK] を押します。

必ず、最後にタブシート“Font”で [OK] を押して終了します。

※ 境界線や配置などの修正を行う場合も、最後はタブシート“Font”で Sizeの設定（確認）を行い、[OK] を押して終了します。

(1) レイアウトの作成

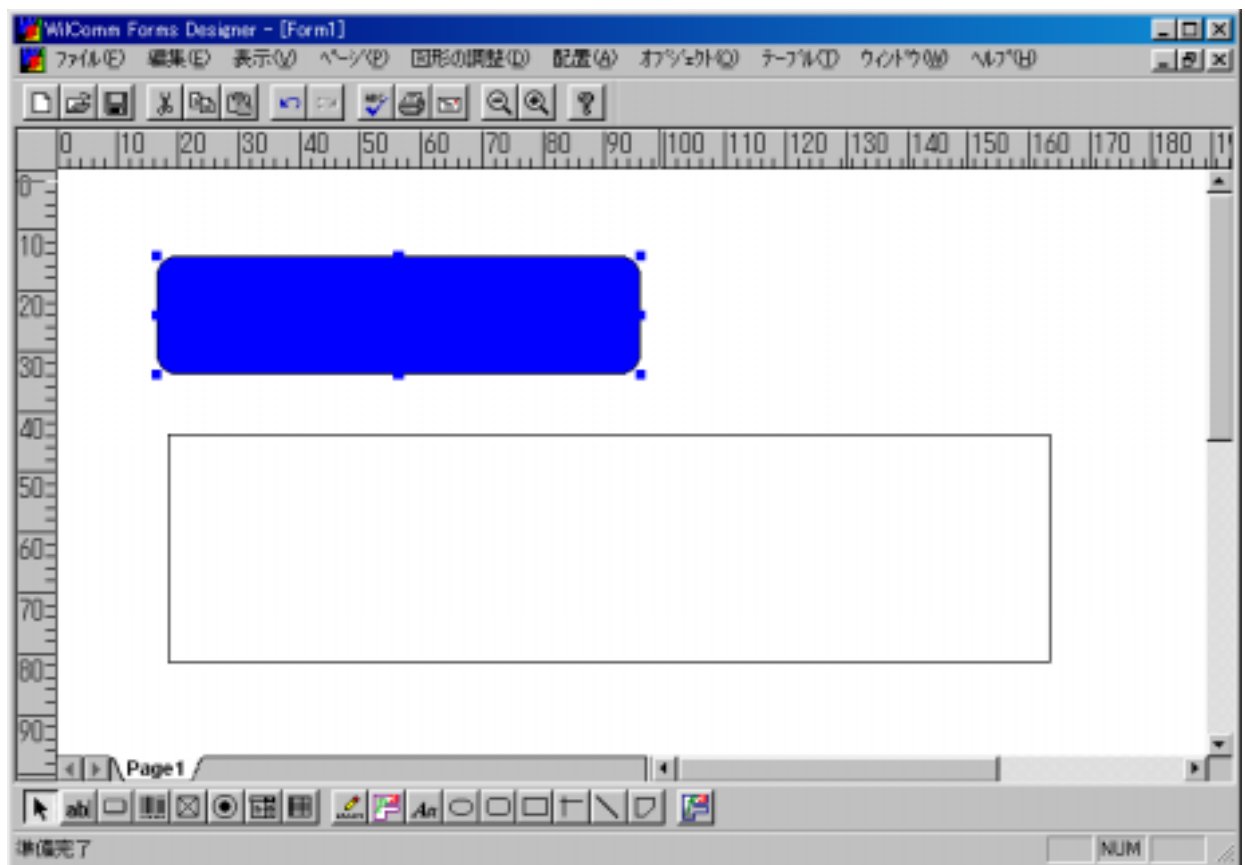
(i) 外枠ならびに図形の配置を確定させます。

(ii) 外枠ならびに図形を作成します。

画面下方のツールバー上のアイコンを使用すれば、四角形、角丸四角形、円等の図形が描けます。パワーポイントと同じ要領で対象アイコンをクリックし、図形を描きたい位置にカーソルを合わせドラッグするだけです。枠内の色の初期値は白です。作成した枠を2回クリックすることによりプロパティが表示されます。前景、背景ともに色を選択し **OK** をクリックします。

注：灰色を選択しますと、ファックス送信、プリンターへの出力のスピードに、多少、影響を及ぼします。

図形を選択すると小さな青色の四角形が表示されます。（下記参照）各コーナーにある青色の四角形の他に図形の内側にひとつ、コーナーの角度を調節する四角形が表示されます。（角丸四角形のみ）



(iii) 罫線を引きます

枠の中にまっすぐな直線を引く場合（水平・垂直方向に）には、**直線設定ツール** のアイコンをクリックして下さい。（2つの直線が交差しているアイコン）斜線を引く場合は**線引きツール** のアイコンを選択します。

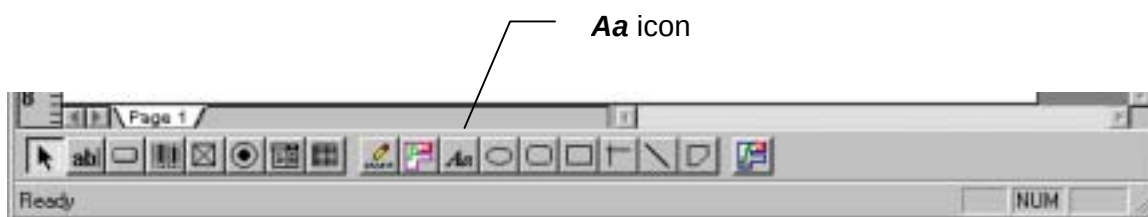
注1：印刷装置によっては印刷できない領域や、ファックス送信の場合のファックス装置が印字するための領域がありますのでフィールドを定義する際にはフォームの端を避けて下さい。

注2：フォームを拡大・縮小して表示するには、ツールバー上の **+** もしくは **-** のアイコンを使用します。罫線の微妙なズレを調節できます。

(2) テキストの入力

次のステップは固定テキスト（タイトル等）の入力です。

画面下方の **Aa** というアイコンをクリックしテキストを入力したい位置にカーソルを合わせドラッグします。テキスト枠が作成されますので、枠内にタイトルとして使用する文字列を入力します。新しいテキスト枠を作成する都度、同じ操作を繰り返します。



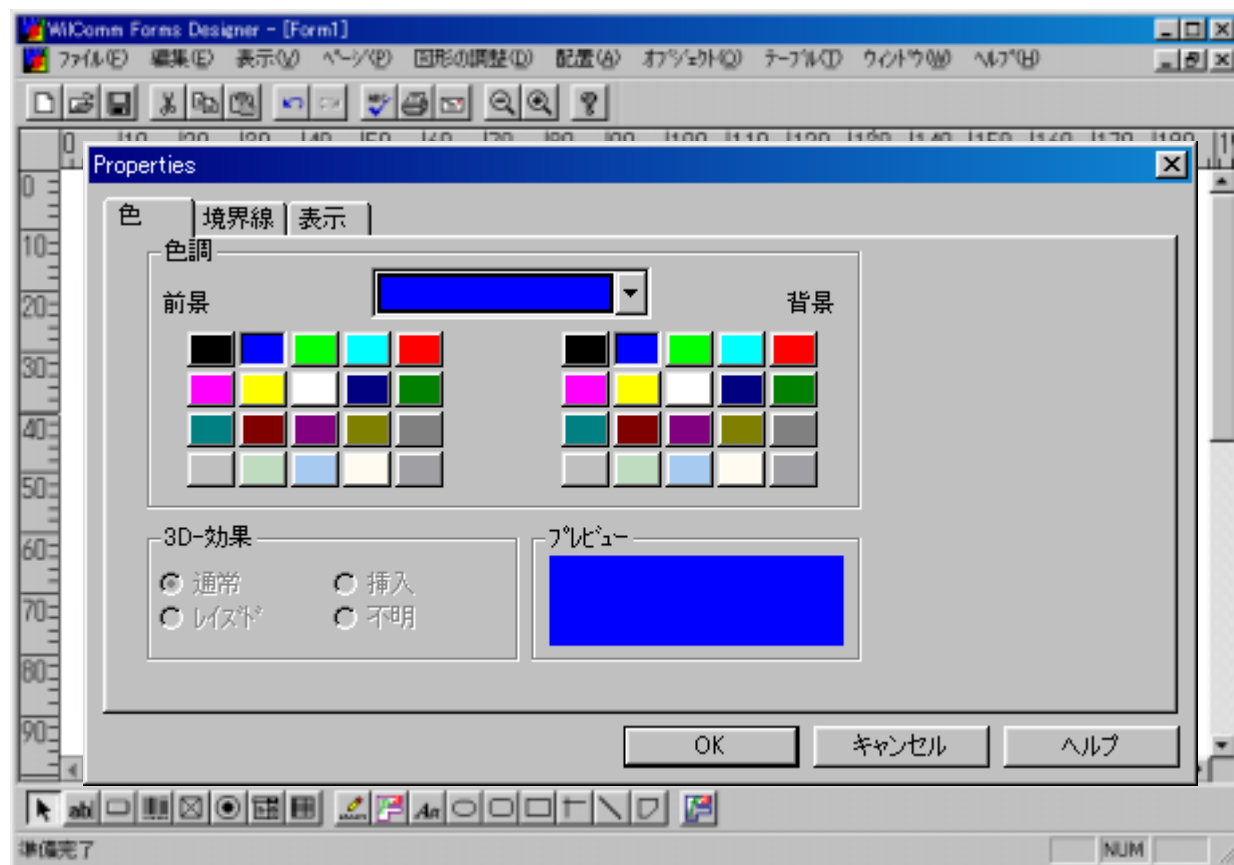
(3) 印刷して確認

レイアウトが完成しましたら、一旦、印刷してそれぞれの外枠、図形、テキストが正しく配置されているかどうか確認をします。正しく配置されていない場合には、この時点で位置の調整をします。

注1：使用されるプリンタードライバー毎に多少、位置のずれが発生します。ウィルコムで使用されるプリンターが確定している場合は、印刷設定（プリンターの設定）であらかじめ該当プリンター名を設定し、プレビューで確認することをお勧めします。同じようにしてファックスにて送信した場合、メールの添付（PDF）とした場合の位置についても確認することができます。

(4) 表示属性の調整

外枠、図形、テキストの配置が正しく行われましたら、ズーム機能を使用してフォームの約4分の1を表示させます。それぞれのオブジェクト（外枠、図形、テキスト等）を選択し右クリックを押すとプロパティが表示されますので、必要に応じて表示属性（フォント、色、線の太さ、表示位置）の調整を行います。プロパティを表示させる方法は、その他に、該当オブジェクトを選択し、画面上方のツールバー **オブジェクトプロパティ** を選択する方法と該当オブジェクトを2回クリックする方法があります。



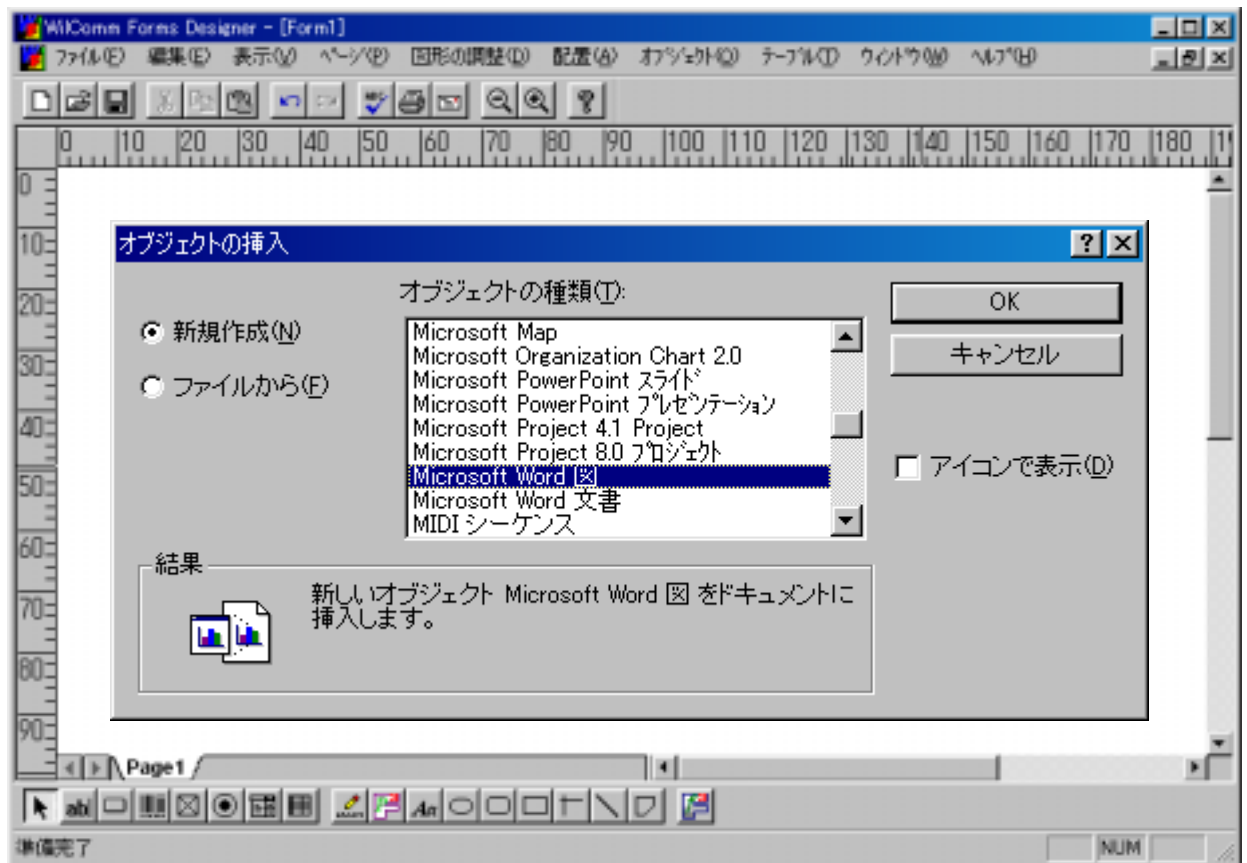
注1：重なり合ったオブジェクトを選択する場合は、先にひとつを選択し、ツールバー上の **オブジェクト** を使用して前面へ移動もしくは、背面へ移動させます。

注2：テキスト項目を図形の中へ配置する場合には、テキスト枠の端をつかみドラッグして重ねて下さい。

注3：配置オプションの **Align/Even Spacing/Same size** は、非常に便利なツールです。テキストフィールドの配置をラフに作成後、このオプションでフィールドの高さや長さなどを正確に調整することができます。

ロゴの挿入

レイアウト上に会社のロゴ等を挿入する場合は、ウィンドウズの Cut & Paste の機能を使用します。また、新規にロゴを作成する場合には、下記の順に選択して Microsoft Word 図を使用すると便利です。**編集/新しいオブジェクトの挿入/新規作成/Microsoft Word 図**
注：MSWord が導入されていることが前提です。



この順に選択しますと、MSWord の新規文書作成画面が表示されます。ここで、ロゴを作成し、MSWord を閉じれば、作成されたロゴはフォーム上に挿入されます。

既に、ビットマップイメージのロゴが存在する場合は、次の順に選択します。

編集/新しいオブジェクトの挿入/ファイルから(F)

フォームに挿入されたロゴは、各コーナーに表示される青い四角形をドラッグすることによりそのサイズを調節できます。

2.02 フィールドの作成

レイアウトが完成しましたら、次に変数を表示するフィールドを作成します。画面下方の **ab** というアイコンをクリックし変数を印字したい位置にカーソルを合わせテキスト枠を作成したのと同じ要領でドラッグし、フィールドを作成します。フィールドはフォーム上では枠のみの表示です。スプールファイルと重ね合わされてはじめてデータが印字されます。

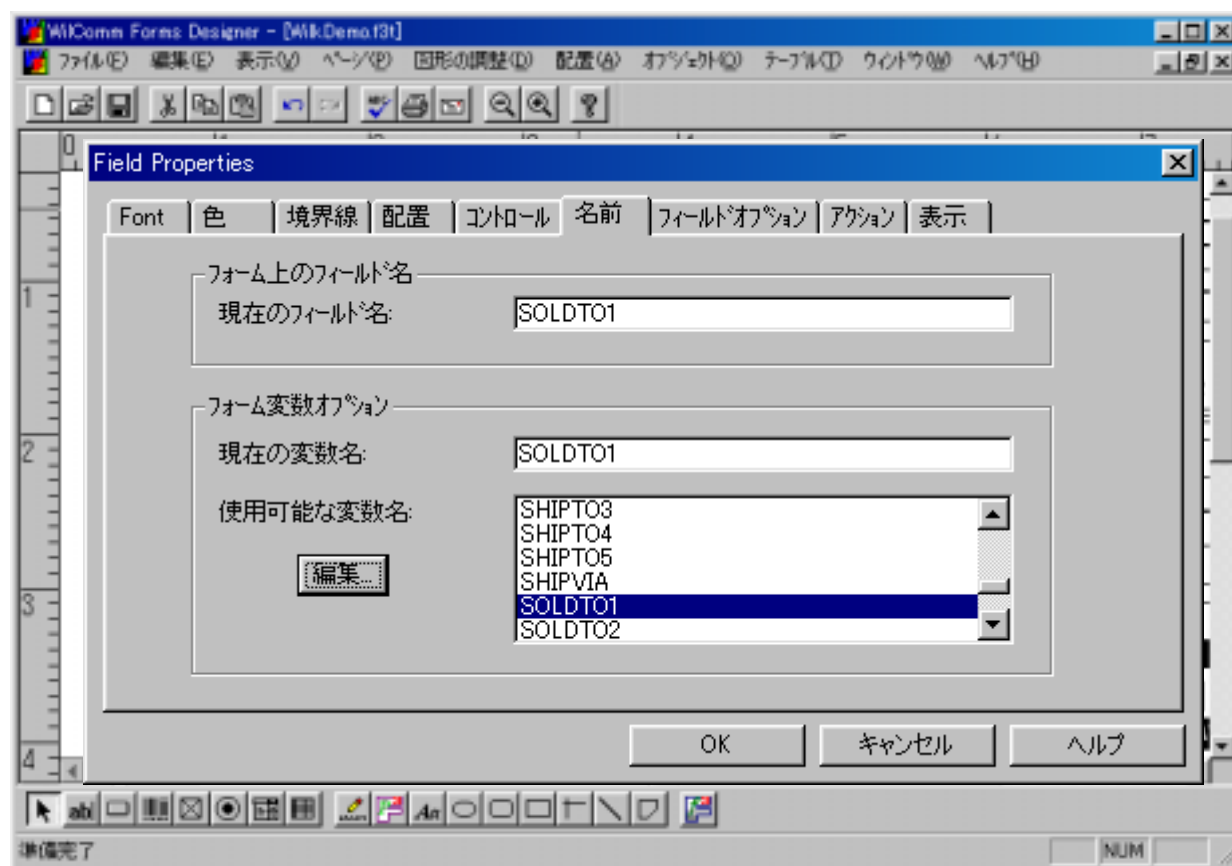
フィールドは個々にプロパティを持ち、それぞれフォント、配置、色等の属性を定義します。また、それぞれ、スプールファイルとの重ね合わせを定義するための フィールド名称が必要となります。（重ね合わせの定義はフィールドマッパーで行います）

(1) フィールドの編集

(i) フィールドプロパティ

各フィールドを2回クリックすることにより、プロパティが表示されます。**名前**というタブを選択します。フィールド名のデフォルト値はF?（?は数字）と表示されます。ふさわしい名前に変更し、**編集**をクリックします。（ここでは仮にSOLDTO1とします。）

*フィールド名の1桁目には、必ず、半角英数を使用して下さい。



(ii) フィールド名の編集

フォーム上の変数の編集

新規または選択された

変数名

- PAGE
- SALESTAXNO
- SHIPTO1
- SHIPTO2
- SHIPTO3
- SHIPTO4
- SHIPTO5
- SHIPVIA
- SOLDTO1**
- SOLDTO2

データタイプ

☒ テキスト(T) ☐ データベース変数(V)

☐ 数値(M) ☐ 計算値(C)

☐ 日付(A) ☐ サマリ(S)

☐ 時刻(I)

データ長

☒ 変数(L) ☐ 固定値

☐ 上限まで変数を繰り返す(E) of 値

オプションというボタンを押します。

この操作でフィールド名がフォーム上に定義されます。続いて印字位置の確認を行うためにテストデータを入力します。

データを選択し、当該フィールドに関連するテストデータを入力します。

注：実際のスプールと重ね合わせて印字する前に必ず、“自動入力なし”を再度、選択して下さい。終了するまで **OK** をクリックします。

以上の操作を、表示する変数フィールド全てについて繰り返し行います。

例：Invoice Number（請求番号）, Date（日付）, Page Number（ページ番号）, 等

全てのフィールドについて操作が終了したら、入力したテストデータを表示させて配置を確認します。画面下方の一番右側にあるフィラーモードのアイコン **F** をクリックします。



配置の確認が終了し、再び、元のモード（**Design Mode**）へ戻るには画面情報の一番右側にあるアイコン **F** をクリックします。

(2) テーブルの作成

(i) テーブルの作成

スプールの詳細情報（例：製品に関連する数量・金額等の情報）を印字する際、同じフォーマットが5行以上続く場合は、テーブル機能を使用します。（個々にフィールドとして定義しても可） **テーブル編集ツール**アイコンは、画面下方、ツールバー上の左から8番目です。



このアイコンをクリックしてテーブルを挿入したい位置にカーソルを合わせ四角で囲みます。この時、テーブルが画面いっぱいに広がらないように注意して下さい。（テーブルのサイズは後で調整します。）

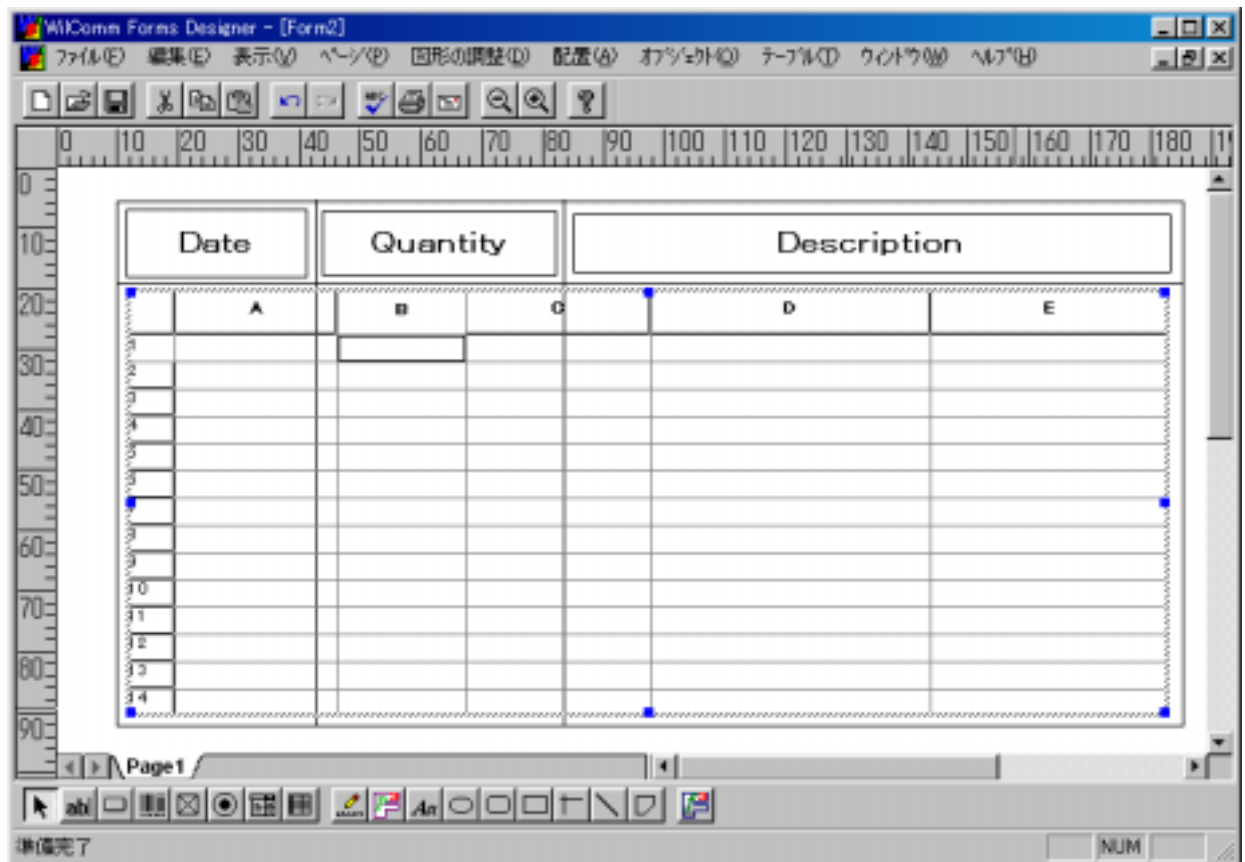
テーブルは最初、縦6行、横4列で作成されます。ここでは仮に25行、4列必要とします。

（どれだけのサイズのテーブルが必要となるかは、個々のスプール情報に依存します。）

行は **F11** を実行することにより、また列は **F12** を実行することによりそれぞれ追加されます。必要となる数だけ **F11** ならびに **F12** を実行します。（やはりこの時もテーブルが画面いっぱいに広がらないように注意して下さい。）行、列ともにヘダーを表示するセル（行は1から、列はAから順次）が存在し、それぞれが交差しているセル（左上端）はblankで表示されています。このセルをクリックするとテーブル全体が選択され、全てのセルを一度に定義できるプロパティを開くことができます。（2回クリック）

注：ポップアップウィンドウ上の??プロパティの表示に注意して下さい。
Field Properties：全てのセルを選択したことを意味します。
Cell Properties：カーソルの置かれていたセルのみ選択されたことを意味します。
Column Properties：列全体が選択されたことを意味します。

テーブル全体が選択された状態で、フォントならびに配置（左揃え・中央揃え等）を変更します。次にそれぞれの列ごとに必要に応じて名前を付けます。（フィールドの場合と同様）それぞれの列のヘダーのセルをクリックします。該当の列、全てが反転イメージで表示されたら画面上方のツールバー **オブジェクトプロパティ** の順に選択します。フォント・配置の情報は既にテーブル全体を選択した時点で定義してありますが、この時点で必要に応じて、列毎の修正をします。



注1：再度メンテナンスをする時のために各列毎の配置に関する情報の画面コピーを印刷しておくことをお勧めします。

注2：列毎のプロパティをメンテナンスしていく段階で配置(Align)のタブで Ambiguous（不明）というものが選択されている場合があります。これは、該当の列の中に他とは違う配置の設定がされたセルが含まれていることを意味します。

列毎のプロパティの中に“名前”というタブがありますのでフィールドの時と同様にそれぞれの列に名前をつけます。

テーブルを使用する場合は、各フィールド（セル）毎に名前を付けるのではなく、そのフィールドが含まれる列全体にひとつの名前をつけます。

名前付けに関しては特別なルールはありません。（但し、同じ名前を複数箇所では使用できません。）ただ、それぞれ印字するスプール項目に対応した名前を付けておくと、フィールドマッパーを使用して定義を作成する際に非常に便利です。

(ii) 行、列の調整

各列毎のプロパティの入力が終了したら、行間ならびに列幅の調整を行います。

テーブルをクリックし、ツール**テーブル行**を順次選択します。次に、“ヘダー”の位置にカーソルを合わせクリックします。行のヘダーを表示するセルが画面より消えます。

列の境界をドラッグすることによってそれぞれの印字データにあった列幅の調整を行います。（テーブル全てが left aligned（左揃え）で定義されている場合、調整しようとしている列の右側の境界をドラッグするとその列の列幅を調整することができます。右揃えの場合にはその逆となります。）

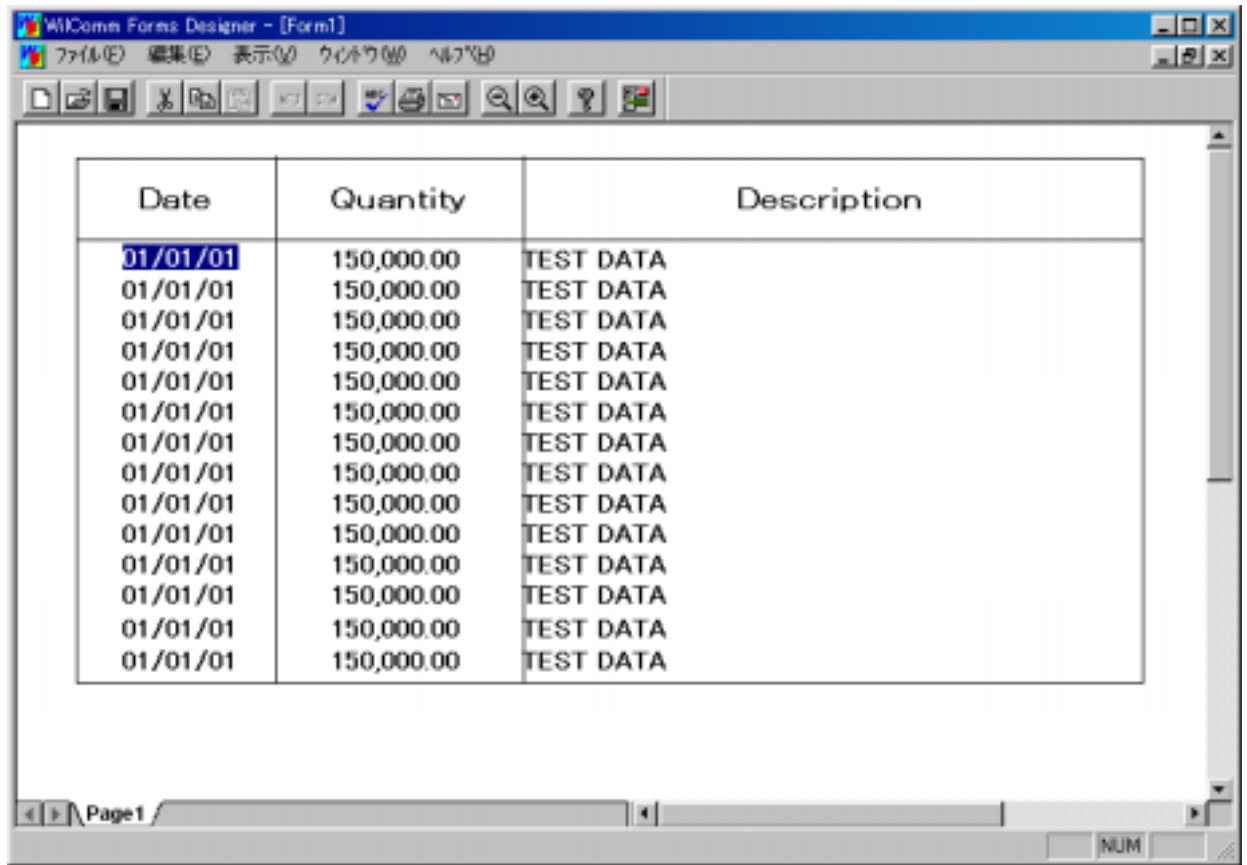
注： 列幅の調整をする際、テーブルの右端が編集画面よりはみ出ないように注意して下さい。テーブルの一番右端（外枠部分）をドラッグしてサイズを調整すると、全ての列に均等に影響がでます。また右端の列の外枠をフォームの端に合わせる場合も同様です。しかし、この場合には、次の方法を使用することにより、全ての列への影響を回避できます。まず、右端の列をクリックし（ヘダー部分）対象の列を反転させます。**テーブル列幅**の順に選択し、“列幅”の画面を表示させ、数字を入力しサイズを調整します。

列のヘダー、行列のグリッドラインを削除します。**テーブル行グリッドライン**、**テーブル列グリッドライン**等を使用します。

行間を全て均等に揃えるにはテーブル全体をクリックし**テーブル行均等**の順に選択します。

注1： テーブル上のデータの最終行にコメントを入力したい（データ行数により印字される行が変わる）場合には、テーブル上に新たにコメント用のテーブルを作成します。フィールドマッパーの条件付きマッピングの機能を使用して、配置の定義をします。

注2：テーブル上の Columns（列）は、該当する列を選択し（反転させ）、**テーブル列削除**の順に選択して削除します。



Fill Mode（フィラーモード）で全体の配置を確認します。
問題がないようであればもとのモードに戻り、テストデータを削除します。
テストデータは、それぞれのフィールド（テーブル上のフィールド含む）のプロパティーを表示させ、名前/編集/オプション/自動入力なしの順に選択して削除します。

(iii) Export Variable Names (フィールド名の転送)

スプールファイルとフォームの重ね合わせ（マッピング）を定義するために、フィールド名の転送（拡張子.F3x ファイルの作成）をします。

ファイル変数の抽出の順に選択します。ファイルの保存画面が表示されますので、フォーム（拡張子.F3t）が保存されているのと同じ場所を指定して下さい。

拡張子.F3x のファイルを開くと、フォーム上に作成した全てのフィールド名が確認できます。（下記参照）

```
C:\Program Files\Wilcomm\F3Forms\Forms\Form1.f3t
Address1
Address2
Address3
Address4
Address5
Invoice
INVDate
PageNO
INVTotals
Detail-Date
Detail-Quantity
Detail-Desc
Detail-Unit
Detail-Totals
```

以上でフォームの作成は終了です！

フォームのレイアウト情報を含む F3t ファイルと、
フィールド名を含む F3x ファイルが作成されました。

これらのファイルは次のステップのフィールドマッパーで使用されます。

フィールドマッパーではフォーム上に作成したフィールドと、スプールファイル上の項目の
関連を定義作成します。

3. フィールドマッパー概要

Field-Mapper（フィールドマッパー）ではスプールファイルの各項目がフォームのどの位置に配置されるかを定義します。ウィルコムはその情報を基に、スプールファイルとフォームの重ね合わせ印刷をします。

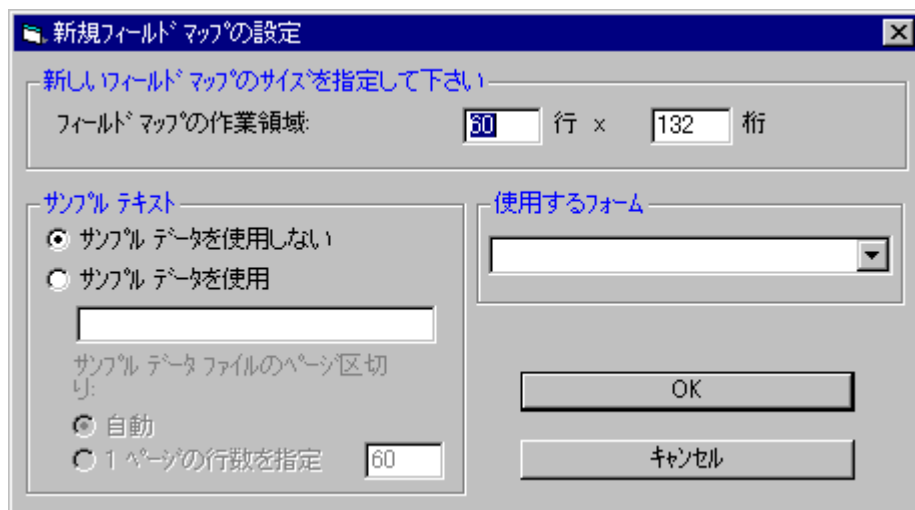
事前準備項目

フィールドマッパーを使用して定義を作成する前に、下記の項目が終了していることを再度、確認して下さい。

1. ウィルフォームで；
 - 全てのフィールドにフィールド名が付けられていること。
 - F3X.という拡張子を持った ASCII ファイルが作成されていること。
(転送が終了していること)
2. ウィルスプールを使用して、サンプルとして使用するスプールファイルを PC ファイルへ変換していること。変換されたファイルは **\Wilcomm\F3Forms\Sample Spool Files** というディレクトリーに拡張子.MAP という形式で存在します。

3.01 マッピング（配置）の定義

1. フィールドマッパーを開始するためには、**Field Mapper** のアイコンをクリックするか、**Field Mapper.exe**（\Wilcomm\Gateway\App というディレクトリーに存在）を実行します。
2. **ファイル新規作成**の順に選択します。下記画面が表示されます。



※フィールドマップの作業領域の行と桁は必ずチェックして設定してください。
設定後は修正できませんので注意してください。

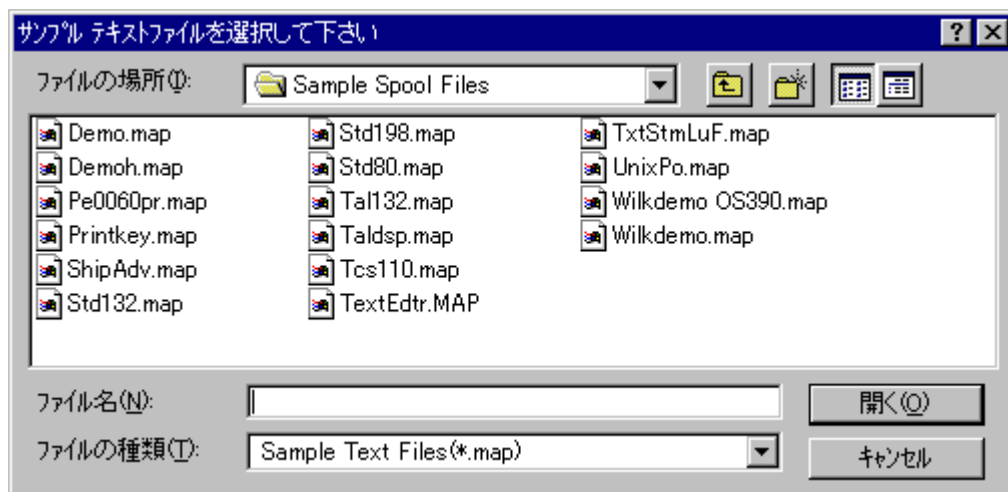
3. フォームのサイズに関する入力を行います。この値は正確な値でなくても結構です。不明な場合には大きめと思われる値を入力して下さい。この値の初期値は 60 行 x132 桁です。
4. "使用するフォーム"をクリックします。\\Wilcomm\F3Forms\Forms というディレクトリーに存在する全てのフォームが表示されますので対象となるフォームを選択します。

注：ここで表示されるためには、\\Wilcomm\F3Forms\Forms というディレクトリーに、そのフォームに対応する拡張子.F3T、.F3X をもったファイルが対で存在しなければなりません。もし、適当なフォームが表示されない場合は、そのフォームが作成されたディレクトリーから上記ディレクトリーにコピーされたかどうか確認します。また、対となる拡張子.F3X の存在も合わせて確認します。

5. "サンプルテキスト"をクリックします。
\\Wilcomm\F3Forms\Sample Spool Files というディレクトリーの拡張子.MAP をもったファイルが画面上に表示されます。これらのファイルは、ウィルスプールでオプション M=Map を使用して作成されたものです。

既に PC 上に ASCII 形式に変換されたスプールファイル（レイアウトは A S 上のものと同じ）が存在する場合は、そのファイルを上記ディレクトリーへコピーします。拡張子は .MAP に変更して下さい。

6. 画面上のリストよりサンプルとして使用するファイルを選択します。ファイル名は必ずしもフォーム名と一致する必要はありません。ここでは仮に、"Wilkdemo.map"を選択します。



サンプルファイルを選択しますと下記画面に戻ります。

新規フィールドマップの設定

新しいフィールドマップのサイズを指定して下さい

フィールドマップの作業領域: 60 行 x 132 桁

サンプルテキスト

☐ サンプルデータを使用しない

☒ サンプルデータを使用

C:\Program Files\Wilkinson\WILC

サンプルデータファイルのページ区切り:

☒ 自動

☐ 1 ページの行数を指定 60

使用するフォーム

WilkDemo

OK

キャンセル

7. **OK** をクリックします。画面上に選択されたスプールファイルがテキスト形式で表示されます。この画面を使用してフォーム上のフィールドとの関連付けを行います。

下記画面では選択されたフォーム上のフィールド名（変数）を表示させています。
(画面右上の変数:のボックスをクリック)

WilComm フィールド マッパー - [Field Map 1]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) オプション(O) ツール(T) ヘルプ(H)

行: 1 桁: 1 幅: 高さ: 変数: AMOUNTDUE

AMOUNTDUE
CUSTOMERNO
CUSTOMERORDERNO
DETAIL-AMOUNT
DETAIL-CONDITIONAL
DETAIL-DESCRIPTION
DETAIL-DESPQTY
DETAIL-ITEMCODE

127445 31/12/99 3% 30 NET 60

D S Fieldhouse & Co D S Fieldhouse & Co

フォーム: WilkDemo データ: Wilkdemo.map ズーム: 100% ページ: 1/1 ページ数: 1

8. Invoice number "127445"を含んだ領域をマウスで囲みます。マウスのボタンを離すと、選択した領域の位置を表す**新規フィールドマップ**の設定画面（次ページ参照）が表示されます。

マウスでドラッグして囲んだ領域が正しくない場合などは、この画面上にて位置を修正します。

9. **変数リストから選択**をクリックします。選択したフォームで使われているフィールド名がアルファベット順に表示されます。

10. 該当するフィールドを選択します。ボックス内にアルファベットを入力しますと、そのアルファベットで始まる最初のフィールドが反転します。同じようなフィールド名が複数存在する場合には、該当するフィールドが表示されるまでアルファベット入力を続けます。選択が完了したら **OK** をクリックします。

フィールドマッパーのメイン画面が表示されます。Invoice number の項目がテキスト枠で囲まれます。（下記画面参照）

										PAGE		1	
										31/12/99		3% 30 NET 60	
D S Fieldhouse & Co Boston Mountain Hwy Via Bullongarook MANSFIELD										D S Fieldhouse & Co Rear Entrance 25 Devil Bend MANSFIELD		QLD 4122 Fax: 9819-4160	

画面上で選択された領域の修正を行うには、テキスト枠をマウスで掴んで移動させます。テキスト枠を2回クリックすると新規フィールドマップの設定画面が表示されます。

11. 各フィールドに対してこのステップを繰り返します。

スプールファイル上の印刷したくない項目については、本ステップを省略します。

3.02 テーブル上のフィールドのマッピング（配置）について

ここまでは、単独に定義されたフィールドのマッピングについての説明を行ってきましたが、テーブル上のフィールドについても同様のステップを行います。但し、テーブルの場合には必要とされる行数（新規フィールドマップの設定画面上の"高さ"の欄）の入力が必要となります。

例：

この例では、Invoice の明細が18行あります。最初のカラム（列）は、**DETAIL-ORDERED** というフィールド名で quantity ordered（受注数量、8桁）が印字されています。マウスで右方向に8桁、下方に18行ドラッグして領域を囲みます。

設定ボックスは下記のように表示されます。

新規フィールドマップの設定

フィールド

行: 20

桁: 2

幅: 8

高さ: 18

変数リストから選択

DETAIL-ORDERED

マッピング方法

☒ ダイレクトマッピング ☐ 条件付きマッピング

条件: [] 条件設定...

OK キャンセル

テーブル上の各フィールド（各カラム）に対してこのステップを繰り返します。

(1) フィールドの配置情報

フィールドマッパー上で定義されたフィールドの配置情報は、表示/一覧表示の順に選択して確認します。

WilComm フィールドマッパー - [Field Map 1]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) オプション(O) ツール(T) ヘルプ(H)

行	桁	幅	高さ	マッピング方法	フォーム変数
7	55	6	1	ダイレクトマッピング	INVNUMBER
20	2	8	18	ダイレクトマッピング	DETAIL-ORDERED

フォーム: WilkDemo データ: Wilkdemo.map スケール: 100% ページ: 1 / 1 ページ数: 1

マウスで順番にクリックしていき、修正したい行を選択します。選択された行を2回クリックしますと対象の**新規フィールドマップ**の設定画面が表示されます。

元の画面に戻るには、**表示/グラフィック表示**の順に選択します。

(2) マッピング情報

フォーム上のフィールドのうち、マッピング（配置）の定義がされていないものを画面上で確認することができます。表示マッピング情報の順に選択します。マッピングステータスが NO と表示されているものが未定義です。

The dialog box titled "Mapping Information" has a "Form Name" field containing "WilkDemo". Below it is a table with three columns: "Variable Name", "Mapping Status", and "Total Mappings". The table lists six variables: "DETAIL-TAXCODE", "DETAIL-U/M", "INVDAT", "INVNUMBER", "ORDERDATE", and "PAGE". The "Mapping Status" for the first five is "NO", and for "PAGE" it is "NO". The "Total Mappings" for the first five is "0", and for "PAGE" it is "1". At the bottom right, there is a "Total:" label and a field containing "2". An "OK" button is at the bottom left.

Variable Name	Mapping Status	Total Mappings
DETAIL-TAXCODE	NO	0
DETAIL-U/M	NO	0
INVDAT	NO	0
INVNUMBER	YES	1
ORDERDATE	NO	0
PAGE	NO	0

Total: 2

3.03 条件付き印刷

フィールドマッパーには、条件に応じて印刷を制御できる機能が含まれています。この機能を使用することにより「合計行のみ太字にする」、「最終ページにのみ合計を印刷する」「ページ毎にもしくはページ指定である特定の注記を印刷する」といった条件付きの印刷が可能となります。

条件付き印刷を使用する殆どの場合、同じ領域に2つ以上のフィールドを定義することとなります。フォーム上で、一つ目のフィールドを定義し、再度、同じ領域をマウスで囲み2つ目のフィールドを定義します。囲まれた2つの領域の位置関係（上下）は**オブジェクト / 前面へ移動**か**背面へ移動**を使用して調整します。ここでは仮に同じ領域にある2つのフィールドをそれぞれフィールドA、フィールドBとします。

同じ領域に2つのフィールドを定義した訳ですから、フィールドマッパー上では、それぞれが印刷される条件を設定します。同時に2つのフィールドが印刷されることのないよう、条件に注意して設定して下さい。（例えばスプールファイルのその領域に印刷される値がaの場合にはフィールドAのみ、bの場合にはBのみ印刷）

例：

ここでは例として Invoice のフォームを使用します。明細行には通常、Ordered Quantity（数量）、Item Code（品目コード）、Description（品目名称）などが印刷されます。

この明細行の一番最後にスプールファイル上でテーブルのカラム（列）をまたがって
"Remember to order early for Christmas"（クリスマス向け商品の注文はお早やめに！）
のようなコメント行が印刷されている場合（31ページ参照）は条件付き印刷の設定が必要となります。

フィードマッパーを使用して、該当のフィールドが、「印刷される」もしくは「印刷されない」場合の条件を定義します。

下記 Invoice フォームを参照して下さい。

The screenshot displays the WilComm Forms Designer interface for a file named [WilkDemo.f3t]. The menu bar includes options like ファイル(F), 編集(E), 表示(V), ページ(P), 図形の調整(D), 配置(A), オブジェクト(O), テーブル(T), ウィンドウ(W), and ヘルプ(H). A toolbar with various icons for editing and viewing is located below the menu. The main workspace shows a form layout with a ruler at the top and left. The form includes fields for CUSTOMER ORDER NO., ORDER DATE, SHIP VIA, CUSTOMER NO., and SALES TAX NO. Below these is a table with columns: ORDERED, ITEM CODE, DESCRIPTION, U/M, DESPATCH QTY, PRICE, and AMOUNT. At the bottom of the form, there are fields for SALES TAX CODE, U %, and TAX, along with a section for TOTAL TAX AMOUNT and AMOUNT DUE. A status bar at the bottom indicates '準備完了' (Ready).

ここでは例として、各明細行には“Ordered”（受注数）や、U/M（単位）、Despatched Quantity（出荷数量）、Unit Price（単価）などが印刷され、最終行にのみカラムを跨ってコメントが印刷されるという設定を用います。使用する条件は、「通常の明細行の場合、前述のフィールドに何らかの値が印刷される」、「最終行の場合、前述のフィールドは必ずブランクとなる」です。これらの条件をフィールドマッパーに定義します。

(1) 条件付マッピングの定義

条件付のマッピングを定義する際には、下記新規フィールドマップの設定画面が表示された時点で"条件付マッピングの定義"のボタンをクリックします。"条件設定"のタブが表示されます。

(2) 条件設定

条件設定のボタンをクリックすると条件設定画面が表示されます。
"数値または文字"（比較対象とされる値）というフィールドにダブルクォーテーション（" "）で囲んだ23桁のスペースを入力します。

次に、"数値または文字"で入力された値と比較される領域を指定します。（ここではカラム 50 から 23 桁とします）**比較領域**のタブをクリックします。

領域設定画面が表示されます。"固定"（領域固定）を選択し、行、列、幅、高さにそれぞれ値を入力します。



The dialog box titled "領域設定" (Area Setting) has a close button (X) in the top right corner. It contains two sections. The first section, "領域タイプ" (Area Type), has two radio buttons: "浮動" (Floating) and "固定" (Fixed), with "固定" selected. The second section, "領域" (Area), contains four input fields: "行" (Row) with value 20, "桁" (Column) with value 50, "幅" (Width) with value 23, and "高さ" (Height) with value 18. At the bottom are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

高さの設定は18となっていますが、これは明細行が18行あることを意味します。

OK をクリックし次に "比較条件" のタブをクリックします。

2つのオプション、"In"（含む）と "Not In"（含まない）が選択できます。

ここでは該当する領域に何も印字されない（23桁のスペースを印字）という設定をしますので "Not In" を選択します。



The dialog box titled "条件設定" (Condition Setting) has a blue header bar. Below the title bar is a message: "このフィールドは、以下の条件に一致した場合にのみマスキングされます。" (This field is masked only when it matches the following conditions). The main area is titled "条件" (Condition) and contains a table with four columns: "数値または文字" (Numeric or Text), "比較条件" (Comparison Condition), "比較領域" (Comparison Area), and "大文字と小文字を区別" (Distinguish Uppercase and Lowercase). The first row has an empty text input field, a dropdown menu set to "Not In", and a text input field containing "Area (020 , 050 , 023 , 018)". To the right of the table are three buttons: "AND", "OR", and "削除(D)" (Delete). At the bottom are "OK", "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ(H)" (Help) buttons.

WILCOMM

The Distribution Wizard

Changing an Existing Distribution

注: この例では"Not In" (含まない) を使用しましたが、「該当の領域にある値が印刷され、その値がここで入力した値と一致する」という条件を設定する場合は "In" (含まれる) を選択します。

上記ステップをコメント行がまたがる全てのフィールドについて繰り返します。この例では "Item Code" (品目コード)、"Description" (品目名称) について同じ設定をします。

最終的な出力の形は下記のようになります。

CUSTOMER ORDER NO.		ORDER DATE		SHIP VIA	
4902		31/12/99		Rail	
ORDERED	ITEM CODE	DESCRIPTION			U/M
1	WILCOMM01	WilComm Base System			Ea
1	WILPRINT	WilPrint Service			Ea
1	WILFAX	WilFax Service			Ea
1	WILMAIL	WilMail Service, with PDF			Ea
THIS IS AN EXAMPLE COMMENT LINE. WILCOMM IS ABLE TO PRINT THIS ACROSS THE COLUMNS DUE TO ITS CONDITIONAL PRINTING LOGIC.					

定義されたフィールドの配置情報を、表示/一覧表示の順に選択して確認します。条件が設定されているフィールドのマッピング方法の欄に "条件付マッピング" が表示されます。(その他のフィールドには "ダイレクトマッピング" (条件なし) が表示されます。)

WilComm フィールド マッピング - [WilkDemo]					
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) オプション(O) ツール(T) ヘルプ(H)					
行	桁	幅	高さ	マッピング方法	フォーム変数
41	83	7	1	ダイレクト マッピング	AMOUNTDUE
17	70	8	1	ダイレクト マッピング	CUSTOMERNO
17	1	15	1	ダイレクト マッピング	CUSTOMERORDERNO
20	83	7	18	ダイレクト マッピング	DETAIL-AMOUNT
20	1	59	18	条件付きマッピング	DETAIL-CONDITIONAL
20	28	28	18	条件付きマッピング	DETAIL-DESCRIPTION
20	62	7	18	ダイレクト マッピング	DETAIL-DESPQTY
20	7	20	18	条件付きマッピング	DETAIL-ITEMCODE
20	2	4	18	条件付きマッピング	DETAIL-ORDERED
20	69	6	18	ダイレクト マッピング	DETAIL-PRICE
20	76	4	18	ダイレクト マッピング	DETAIL-TAXCODE
20	57	3	18	条件付きマッピング	DETAIL-U/M
7	63	8	1	ダイレクト マッピング	INVDATE
7	55	6	1	ダイレクト マッピング	INVNUMBER
17	21	8	1	ダイレクト マッピング	ORDERDATE
3	76	10	1	ダイレクト マッピング	PAGE

WILCOMM

The Distribution Wizard

Changing an Existing Distribution

(3) マッピングされたフィールド名の表示

オプションフィールド名表示の順に選択すると、マッピングされたスプールデータの各項目毎のフィールド名が画面上に表示されます。（下記画面参照）

The screenshot shows the 'WilComm フィールド マッパー - [WilDemo]' window. It features a menu bar with 'ファイル(F)', '編集(E)', '表示(V)', 'オプション(O)', 'ツール(T)', and 'ヘルプ(H)'. Below the menu is a toolbar with various icons. The main area displays a form layout with fields mapped to a grid. The fields include 'SOLD101', 'SOLD102', 'SOLD103', 'SOLD104', 'SHIP101', 'SHIP102', 'SHIP103', 'SHIP104', 'TOMERORDE', 'ORDER', 'SHIPVIA', 'Fast', '104844', 'Y1', 'TOMER', 'ESTAX', 'PAGE', '127445', '31/12/99', 'TERMS :', 'EX 80 NET 80', and 'Fax: 9819-4180'. The status bar at the bottom shows 'フォーム: WilDemo', 'データ: Wildemo.map', 'ズーム: 100%', 'ページ: 1/1', and 'ページ数: 1'.

(4) 複数条件の設定

フィールド毎に、印刷する/しないの条件は無制限に設定することができます。下記は And 記号を使用して 2 番目の条件を設定した例です。

The screenshot shows the '条件設定' (Condition Setting) dialog box. It has a title bar '条件設定' and a message: 'このフィールドは、以下の条件に一致した場合にのみマッピングされます。' (This field is mapped only when it matches the following conditions). The '条件' (Conditions) section contains a table with columns: '数値または文字' (Numeric or Text), '比較条件' (Comparison Condition), '比較領域' (Comparison Area), and '大文字と小文字を区別' (Distinguish Uppercase and Lowercase). The table has two rows: the first row has an empty text field, 'Not In', and 'Area (020 , 050 , 023 , 018)'; the second row has 'total:', 'Not In', and 'Area (000 , 060 , 006 , 001)'. Between the rows is the word 'And'. To the right of the table are buttons for 'AND', 'OR', and '削除(D)' (Delete). At the bottom are buttons for 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ(H)' (Help).

WILCOMM

The Distribution Wizard

Changing an Existing Distribution

この例では、「60桁目に "Total:" (合計) というコメントが印字されない」という第2の条件を追加しています。明細が全て印字され、最終行に（位置は変動）"Total:" (合計) が印字されるような場合にはこのような第2の条件が必要となります。

4. ディストリビューションウィザード概要

ウィルコム最大の特徴は、AS400で作成されたスプールファイルを配信することですが、ここではさらにそのスプールファイルをどのようなフォームと重ね合わせ、またどのような条件で配信するかを定義する、ディストリビューションウィザードについて解説します。

ディストリビューションウィザードを駆使することによりウィルコムをより日常業務へ柔軟に対応させることができます。

ディストリビューションウィザードではスプールファイル毎、ページ毎に次のような内容を定義します。

- ・出力装置の選択：プリンター、ファックス装置もしくはメールサーバー
- ・プリンター装置の選択
- ・使用するフォームの選択等…

定義された内容は **Distribution Director**（ディストリビューションディレクター）というファイルに保管されます。

定義は次のような順序で作成します。まず、ウィルコムサーバーへ送付されてきたスプールファイルをその内容（ファイル属性等）毎に振り分けるためのフィルター（条件）を作成します。（例：ファイル名=??? And ユーザデータ=??? Or フォーム名=???）

次に、その条件を満たした場合の出力指示（出力装置、使用するフォーム等）を定義します。

上記フィルターと出力指示の各組み合わせをディストリビューションセクションと呼びます。ディストリビューションディレクターファイルは、いくつものセクションより構成されます。

送付されてきたスプールファイルと該当するセクションがディストリビューションウィザード上に存在しなかった場合は、

"No matching distrib/n section found for spool file"

（このスプールファイルと） or

"No matching distrib/n section found for this page"

（このスプールファイルのページと該当するセクションが存在しません）

というメッセージがAS400側へ送信されます。

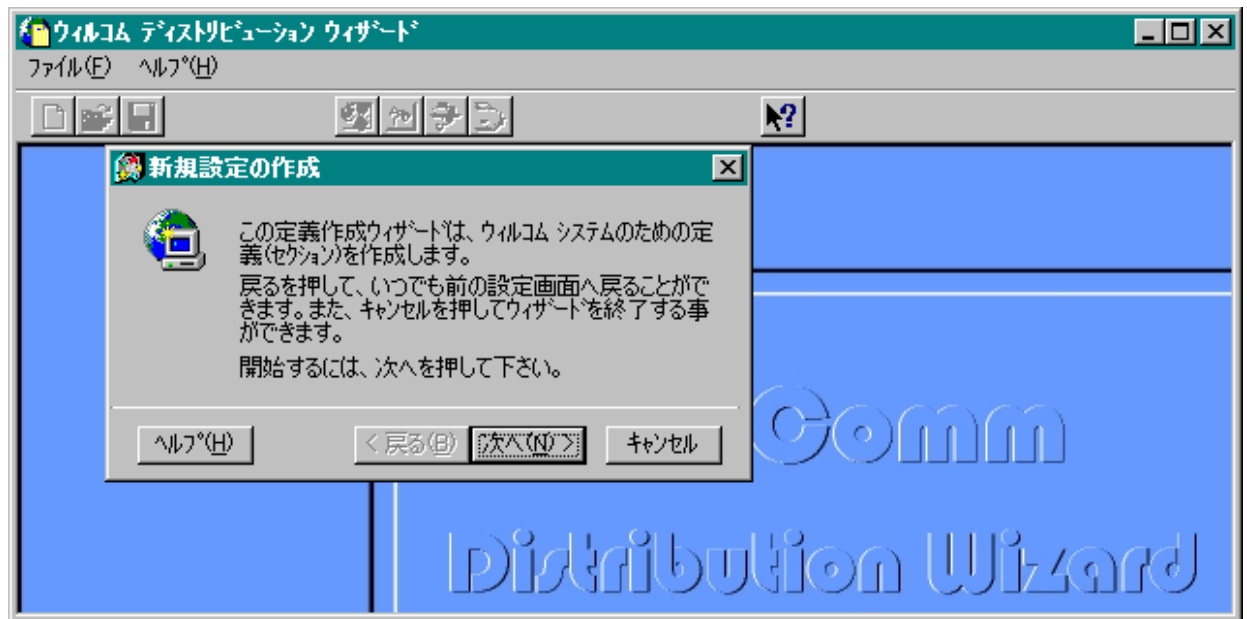
4.01 事前準備項目

ディストリビューションウィザードを使用して、定義を作成する前に下記の項目が終了していることを、再度確認して下さい。

1. 使用するフォームはウィルフォームスを使用して作成されている。また、その定義は：
 \Wilcomm\F3Forms\Forms というディレクトリーに保管されている。
2. 上記フォームに対するフィールドの配置がフィールドマッパーをしようして作成されている。また、その定義が \Wilcomm\F3Forms\FieldMap Maps というディレクトリーに保管されている。
3. スプールファイルのページ毎にそのページに印字された内容に基づいてフィルターを作成する場合、サンプルとなるスプールファイルが \Wilcomm\F3Forms\Sample Spool Files というディレクトリーに保管されている。（ファイルの拡張子は .MAP）

4.02 セクションの作成

1. ディストリビューションウィザードを起動させるにはアイコンをクリックする、または Distribution Wizard.exe を実行します。このプログラムは導入時には、`\\Wilcomm\\Gateway\\App` というディレクトリーに保管されています。
2. ファイル(F) / 新規作成(N)を選択します。下記画面が表示されます。



開始するために、[次へ(N)]をクリックまたは、Enter キーを押します。

- 3 次の画面 (「作業環境を選択して下さい」という指示があります。)では現行バージョンでは選択するオプションが1つ (「直接設定を作成」) しかサポートされていないので[次へ(N)]をクリックします。[属性条件設定]のダイアログボックスが表示されます。(次ページ参照)



上記、[属性条件設定]ダイアログボックスでは、スプールファイルの内容（属性等）を利用して様々な条件を設定します。

画面左側の属性条件を参照して下さい。これらは、AS400のスプールファイルの属性とウィルコムにより追加された項目により構成されています。FormType や Service Code または Specific Code（ウィルコムの属性）がスプールファイルを識別するために頻繁に使用されます。

- 4 Invoices（請求書）に関する定義を作成すると仮定します。このスプールファイルには FORMTYPE に INVOICE という記述があります。他のスプールファイルと識別するためにこの情報を使用します。FORMTYPE のチェックボックスをクリックします。
- 5 また、上記スプールファイルをテキスト形式での添付ファイルとしてメールで送信するとします。ウィルコムによりスプールファイルには Service Code WM が属性として付加されていますので、SERVICECODE のチェックボックスをクリックします。チェックボックス上には選択された印が表示されます。カーソルを該当フィールドに移動させ WM と入力します。

入力結果は下記画面を参照して下さい。



大文字、小文字の区別が必要な場合には次の画面で "Case Sensitive"（大文字と小文字）のチェックボックスをクリックして下さい。

6. 属性条件の設定が完了したら、[条件セットの作成]をクリックします。下記画面右下に [属性条件設定の結果]画面が表示されます。



[属性条件設定の結果]パネルの補足説明

- 属性条件が Formtype = "Invoice" **and** Service Code = "wm"で設定されましたので各スプールファイルまたはページは上記2つの条件を同時に満たさなくてはなりません。

上記画面（画面左）にて作成された各条件は全て"And"条件で結合されます。"Or" 条件を作成する場合には一度 "Make Condition Set"（条件セットの作成）を実行した後に再度、上記画面より条件を追加します。

- 上記例では比較演算子としてデフォルトの **Is**（等しい）を使用していますが、**Is Not**（等しくない）の使用も可能です。設定するためには、**Is** が表示されているボックスをクリックします。
- 大文字、小文字を区別する場合には "Case Sensitive"（大文字と小文字）のチェックボックスをクリックして下さい。
- [条件の削除]**をクリックするとカーソルが位置付けられている条件、または、"**Is - Is Not**" のフィールドが反転している条件が削除されます。

- Clicking on **Delete Condition Set** deletes all condition entry lines in the currently active condition set, i.e. it will delete all condition lines which were "made" in the one "Make Condition Set". (このタブは現在、使用されていません)

誤って条件を削除してしまった場合には、同じ画面より再度、作成しなおします。

7. もうひとつ別な属性条件の場合 ("Or"を使用) にもこのディストリビューションセクションを使用すると仮定します。設定する条件は User フィールドが"QSECOFR"と一致するものとします。第2の条件を設定するためには：
- USRER のチェックボックスをクリックします。
 - 上記フィールドに QSECOFR と入力します。
 - 条件セットの作成をクリックします。

最初に作成された条件セットと "Or"条件で結ばれます。(下記画面参照)



このセクションは上記どちらかの条件に当てはまるスプールファイル、またはスプールページを処理します。

条件セットは無制限に設定することができます。また、条件の変更は後述の[変更モード]でも修正することができます。

8. [属性条件設定]が終了しましたら[次へ(N)]のタブをクリックします。印字されたデータを使用して、さらに条件を追加設定するための画面が表示されます。属性条件設定では、スプールファイルの属性をもとに条件を設定しましたが、ここでは印字されたテキストデータを使用して条件を設定します。双方の条件は同時に組み合わせて使用することができます。



9. データ条件設定を定義しない場合は、[次へ(N)]のタブをクリックします。[サービスの定義]の画面が表示されます。 [サ

4.03 データ条件設定

10. 前項で [データ条件設定を定義する]を選択した場合には、\Wilcomm\F3Forms\Sample Spool Files というディレクトリーの拡張子 .MAP をもったファイル（サンプルとして使用するスプール）が画面に表示されます。



14. [領域比較]の矢印をクリックします。ドロップダウンボックスに定義されたフィールド領域の情報が表示されますので該当すると思われるものをクリックします。

[数値または文字]に比較するキーワードを入力します。この例では"03-"と入力されています。

[数値または文字]の右となりのフィールドをクリックするとドロップダウンボックスに "In"、 "Not In"、 ">" 等のオプションが表示されます。

この例では、スプールページに "03-" と印字されているものを対象としますので "In"を選択します。

Note: 上記とは反対に「[数値または文字]に指定された値が印字されていない場合のみ」という条件を設定するには"Not In"を選択します。

- i. [数値または文字]フィールドに入力された値と比較する値の 大文字、小文字を区別する場合には[大文字と小文字を区別]のチェックボックスをクリックして下さい。

前ページの [データ条件設定の結果] 画面は既に入力済みの状態が表示されています。

15. 複数のデータ条件

複数のデータ条件を組み合わせて使用する場合には：

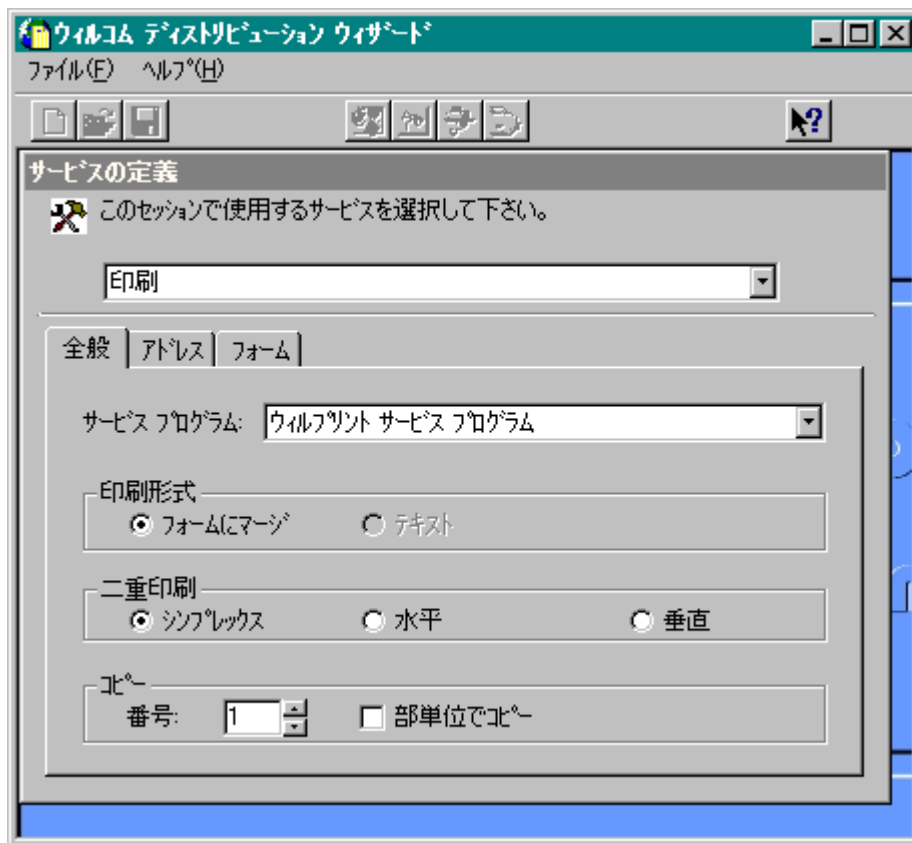
- i. まず、"And" もしくは "Or" のタブをクリックします。
- ii. 追加のデータ条件毎に前述のステップ 1 2 から繰り返し行います。

全ての条件の設定が終了した時点で Next をクリックします。

以上でスプールファイルをその内容（ファイル属性等）毎に振り分けるためのフィルター（条件）の作成は終了です。次に、条件を満たしたスプールページがウィルコムの中のどのサービス（プリント、ファックス、メール）を利用するかを定義します。

4.04 サービスの定義

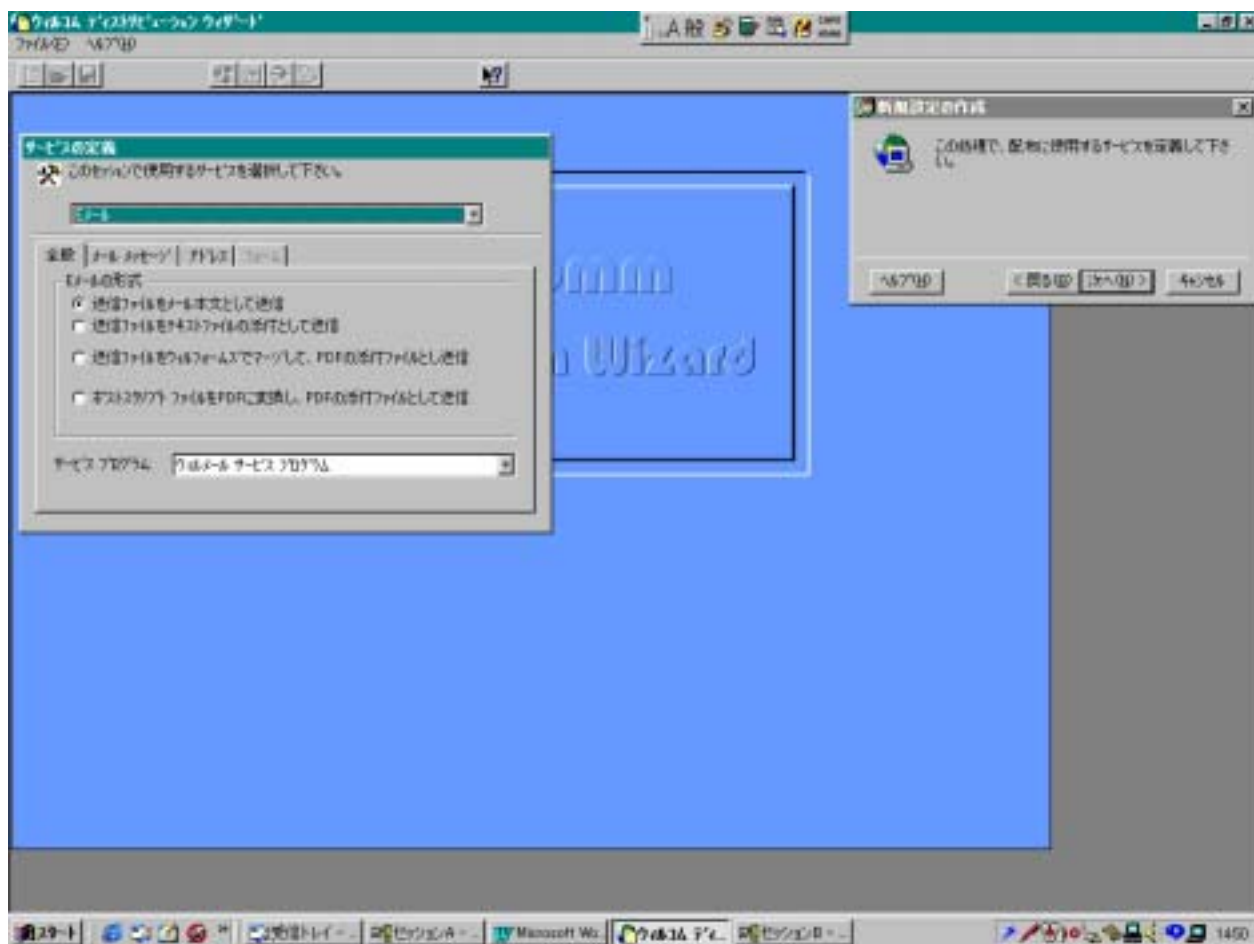
16. [次へ(N)] ボタンをクリックすると[サービスの定義] 画面が表示されます。



17. 最初のフィールド（サービスの選択）をクリックすると、ウィルコムで利用可能なサービスがドロップダウンボックスに表示されます。現在有効なサービスは：Print（印刷）、Fax（ファックス）、Email（メール）です。（下記参照）：



18. スプールページが利用するサービスを選択します。
19. ここでは Invoice をテキスト形式でメールに添付して送信するという例を設定します。
"Email" (Eメール) サービスを選択します。メールに必要なサービスの定義画面が表示されます。



20. [全般]タブより送信する形式を選択します。有効なオプションは下記の4つです。：
- 送信ファイルをメール本文として送信
 - 送信ファイルをテキストの添付として送信
 - 送信ファイルをウィルフォームでマージしてPDFの添付ファイルとして送信
 - ポストスクリプトファイルをPDFに変換し、PDFの添付ファイルとして送信

21. 形式の選択が終了したら、[メールメッセージ]タブをクリックします。（下記画面参照）
件名、メッセージを入力します。（入力オプション）入力された件名はメールの件名として、また、メッセージはメールの本文として使用されます。

The screenshot shows the 'Service Definition' dialog box with the 'Email Message' tab selected. The 'Service' dropdown is set to 'Eメール'. The 'Name' field contains '請求書送付のご案内'. The 'Message' field contains the following text: 'いつも大変お世話になります。請求明細を添付させて頂きましたのでよろしくご査収下さい。' followed by '〈株〉ケイ・アイ・エス・エス' and '那波多目 雅之'.

22. 次に送信アドレスに関する定義を作成するために、[アドレス]タブをクリックします。

The screenshot shows the 'Service Definition' dialog box with the 'Address' tab selected. The 'Service' dropdown is still 'Eメール'. The 'Address Definition Method' section has four radio buttons: 'Host-specified address' (selected), 'Fixed address', 'Floating address', and 'Search address'. Each of the last three has a 'Details...' button next to it.

- ・ホストで指定されたアドレス
ディストリビューションウィザードでアドレスの定義は行いません。
（デフォルト値）
AS400上で設定されたものが使用されます。

- ・ 定位置アドレス

スプールページの固定領域（定位置）より、アドレス情報を読み取ります。チェックボックスをクリックすると下記入力画面が表示されます。

定位置アドレスの定義

下記の領域からアドレスを取得:

行: 1 桁: 1

幅: 1

☐ 最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。

OK キャンセル

スプールページのアドレス情報が含まれる領域を入力します。

- ・ 浮動アドレス

アドレス情報がスプールページの固定領域ではなく、特定の文字列に付随して印字されている場合に使用します。（例：e-mail naba@kiss21.co.jp、fax 5408-7683）

浮動アドレス

以下の文字列が見つかった場所を基準とする:

email ☐ 大文字と小文字を区別

アドレスが抽出される領域

水平位置

☐ 文字列の左側 ☒ 文字列の右側

距離: 2

AND

垂直位置

☐ 文字列の上側 ☒ 文字列の下側

距離: 0

アドレスの幅

幅: 30

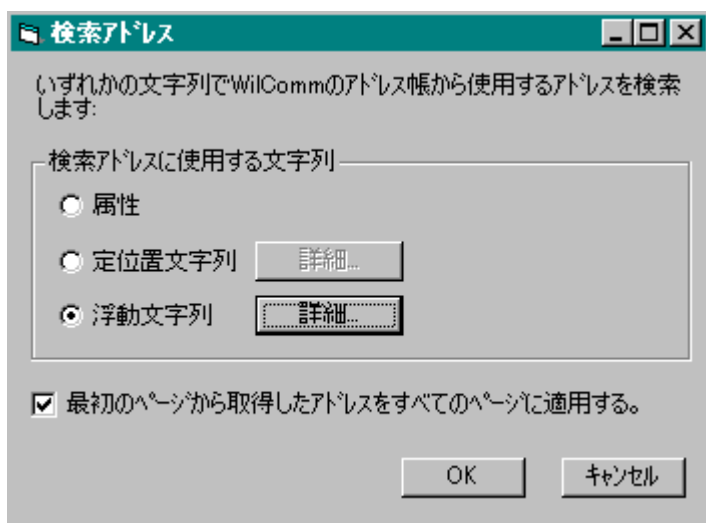
☐ 最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。

OK キャンセル

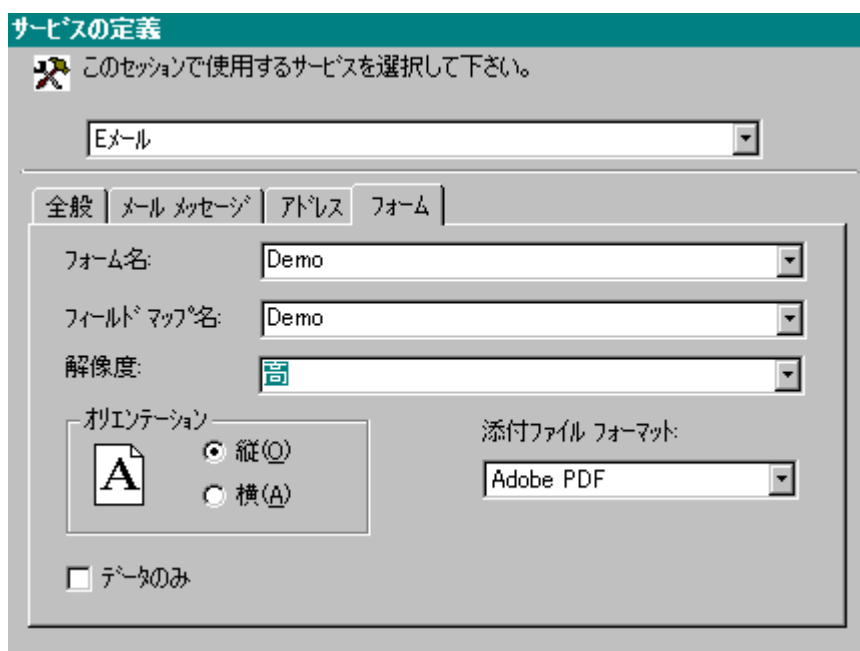
- ・ 検索アドレス

スプールページにはアドレス情報を持たず、印字されてる文字列（顧客番号や仕入先番号）よりウィルコム of アドレス帳を検索し、アドレス情報を取得します。

スプールファイルの属性を利用する場合（例：ユーザーデータに顧客番号を印字）は属性のチェックボックスをクリックし、検索に利用するスプールデータを選択します。



23. [全般]タブのオプションでウィルフォームとマージして印刷を選択した場合には、[フォーム]のタブをクリックして、使用するフォーム名、フィールドマップ名を指定します。



[オリエンテーション]のに縦書き、横書きの指定をします。

[データのみ]のチェックボックスをクリックするとフォーム&マップで設定された配置で、データのみ印字することが可能です。（フォーム上の罫線、ロゴなどは印字されません）

24. 終了したら "次へ (N)" をクリックします。下記画面にて作成したセクションコード、名称を入力します。(コードは英字のみ有効です)

[完了(F)]をクリックして設定を終了します。

4.05 サービスの定義（印刷&ファックス）

ここでは、サービスとして印刷またはファックスが選択された場合にのみ表示される画面、項目について解説します。

(1) サービスとして印刷を選択した場合

サービスとして印刷を選択した場合はフォームとのマージが必須となります。特にデザインの必要のない場合にはウィルコムで提供される次のフォームを使用します。

STD80（80桁の帳票）

STD132（132桁の帳票）

STD198（198桁の帳票）

PRINTKEY

出荷時に提供される上記フォームは修正可能です。必要に応じて、会社のロゴ、住所などの情報を追加して使用して下さい。

25. サービスとして印刷を選択すると次頁の画面が表示されます。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

印刷

全般 アドレス フォーム

サービス プログラム: ウィルプリント サービス プログラム

印刷形式

☒ フォームにマージ ☐ テキスト

二重印刷

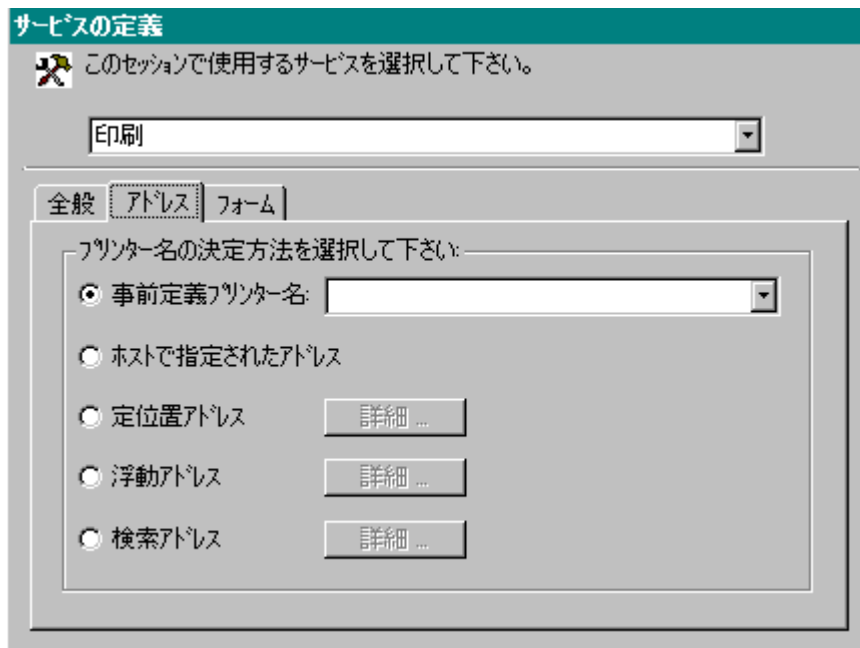
☒ シンプレックス ☐ 水平 ☐ 垂直

コピー

番号: 1 ☐ 部単位でコピー

26. サービスプログラムはウィルプリントサービスプログラムを選択します。ウィルコムサーバーと異なるロケーションにウィルプリントソフトを導入する場合にはリストより該当するサービスプログラムを選択します。（設定時にウィルプリントのINIファイルの修正が必要）
- ・印刷形式
有効な形式は「フォームにマージ」のみです。
 - ・二重印刷
シンプレックス：2重印刷はしません。
水平：
垂直：
 - ・コピー
番号：コピーする枚数を入力します。
部単位でコピー：複数ページの印刷物を複数部印刷する場合に使用します。

27. [アドレス]タブをクリックし、使用するプリンター名を定義します。



- ・事前定義プリンター名
矢印をクリックすると有効なプリンター名が表示されます。
(ドライバの存在するプリンターのみ)
使用したいプリンターが表示されない場合は、ネットワークの構成を調べて下さい。
- ・ホストで指定されたアドレス (プリンター)
ディストリビューションウィザードでプリンターの定義は行いません。
AS400上で設定されたものが使用されます。
- ・定位置アドレス / 浮動アドレス / 検索アドレス
4.04 サービスの定義を参照して下さい。

(2) サービスとしてファックスを選択した場合

サービスとしてファックスを選択した場合はフォームとのマージ、テキスト形式の選択が可能です。特にデザインの必要のない場合にはウィルコムで提供される次のフォームの使用をお勧めします。

STD80 (80桁の帳票)
STD132 (132桁の帳票)
STD198 (198桁の帳票)
PRINTKEY

出荷時に提供される上記フォームは修正可能です。必要に応じて、会社のロゴ、住所などの情報を追加して使用して下さい。

28. サービスとしてFAXを選択すると下記画面が表示されます。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

FAX

全般 | カバー ページ | アドレス | フォーム | スケジュール

FAXの形式

☒ テキスト形式でFAX ☐ フォームにマージしてFAX ☐ ポストスクリプト ファイルとしてFAX

サービス プログラム:

ヘッダ行:

解像度

☒ ファイン (200 × 200) ☐ ノーマル (200 × 100)

FAXの形式は下記の3つより指定します。

- ・テキスト形式でFAX
- ・フォームにマージしてFAX
- ・ポストスクリプトファイルとしてFAX

サービスプログラム

ヘッダー行

29. [カバーページ]タブをクリックします。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

FAX

全般 カバーページ アドレス フォーム スケジュール

☒ カバーページ

件名:

メッセージ:

テンプレート:

☒ 最初のページをカバーページとする

30. [スケジュール]タブをクリックします。

The screenshot shows the 'サービスの定義' (Service Definition) dialog box with the 'スケジュール' (Schedule) tab selected. The 'FAX' service is chosen from the dropdown menu. The 'スケジュール' tab is active, showing settings for '優先順位' (Priority) set to '中' (Medium), 'リトライ回数' (Retry Count) set to '3', and 'リトライ間隔' (Retry Interval) set to '180' seconds. Other tabs visible are '全般' (General), 'カバー ページ' (Cover Page), 'アドレス' (Address), and 'フォーム' (Form).

優先順位：現行バージョンではサポートされていません。
リトライ回数：ファックス送信失敗時の再送回数を指定します。
リトライ間隔：ファックス送信失敗時の再送の間隔を指定します。

4.06 優先順位の設定

31. サービスの定義が終了したら "次へ (N)" をクリックします。下記画面にて作成したセクションコード、名称を入力します。(コードは英字のみ有効です。)

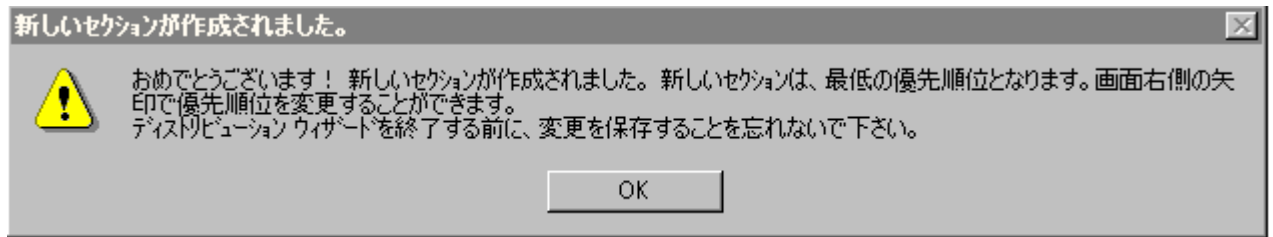
The screenshot shows the '新規設定の作成' (New Setting Creation) dialog box. It prompts the user to enter a 'コード' (Code) and a '名称' (Name) for the new setting. The 'ヘルプ(H)' (Help) button is on the left, and the '戻る(B)' (Back), '完了(F)' (Finish), and 'キャンセル' (Cancel) buttons are on the right.

[完了(F)]をクリックすると優先順位を設定する画面上に次頁のメッセージが表示されます。

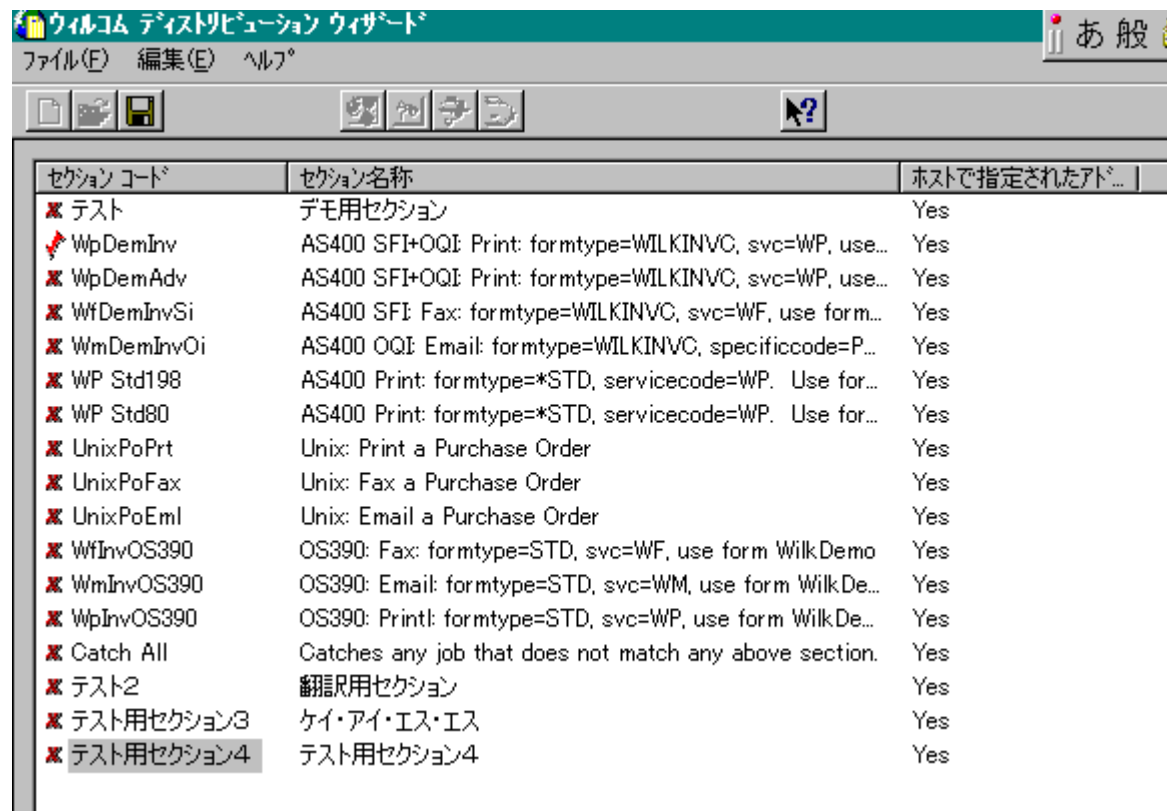
WILCOMM

The Distribution Wizard

Changing an Existing Distribution



OK をクリックします。新規に作成されたセクションはリストの 1 番下に反転イメージで表示されます。（下記参照）



上記リストの順に従ってスプールページは該当するセクションを検索し、最初に該当したセクションに設定されている内容で処理されます。

32. 新規に作成されたセクションの優先順位を調整するには、画面右側の矢印を使用します。

より複雑な（複数の）条件を含むセクションをリスト上の上位に位置付けることをお勧めします。（下記例参照）また、最下位にはどの条件にも当てはまらなかった場合に使用されるセクションを設定します。

例：

セクション
XXX
YYY

フィルター（条件）

Service Code = WP and Formtype = *STD and UserData = INVOICE
Service Code = WP and Formtype = *STD

印刷形式

Invoice form
Listing Paper

33. 複数のセクションを同時に使用する場合（例：同じスプールページを倉庫のプリンターから納品書として、また同時に経理のプリンターから請求明細として、顧客へ控えとしてファックスにて送信）にはセクションの**継続**機能を利用します。

継続機能を設定するには、まず、使用するセクションの優先順位を揃え（リスト上に続けて並ぶように）ます。次に2番目以降となるセクションを順次選択し、右クリックでプロパティーを表示させ、継続をクリックします。下記マーク参照。



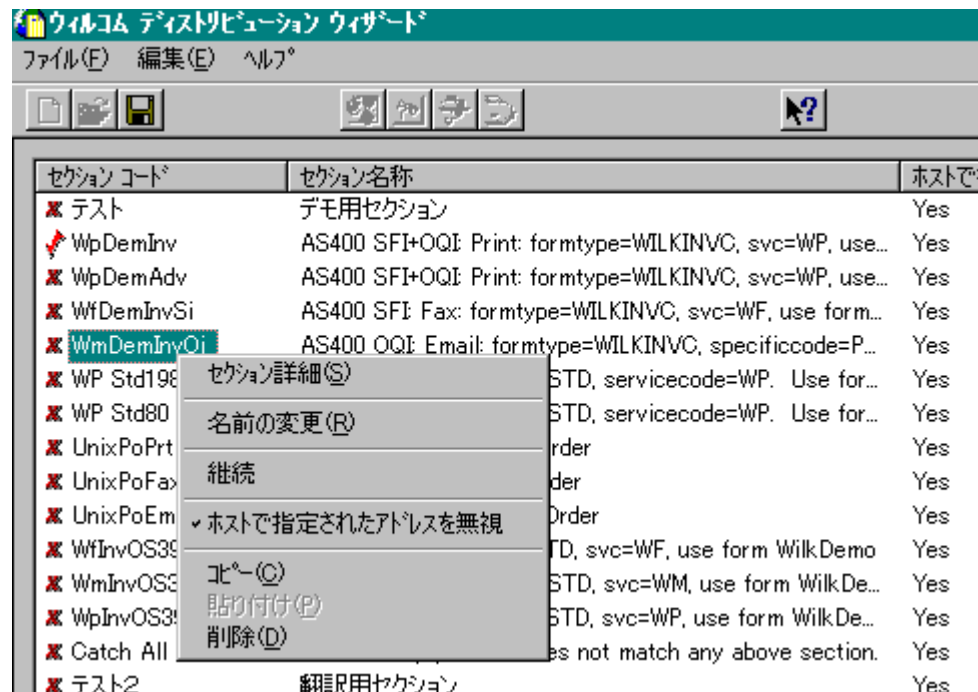
通常、最初に条件が一致したセクションに基づいて処理が行われ、それ以降のセクションは検索されませんが、**継続を指定したセクションに基づいて処理を行った場合**、それ以降のセクションも検索され、条件に一致するセクションがあれば、そのセクションの処理も行われます。そのため、本来処理させたくないセクションで処理が行われる可能性がありますので、継続を指定したセクション以降のセクションでは、条件設定を慎重に行う必要があります。

34. 優先順位の設定が終了したら[ファイル(F)]、[終了(X)]の順にクリックします。

以上で、ディストリビューションウィザードの新規作成は終了です。

4.07 セクションの変更

35. 登録済みのセクションを修正するには、下記画面より、対象となるセクションを選択し、右クリックでプロパティーを表示させ、[セクション詳細(S)]をクリックします。



36. 下記画面にて属性条件の変更を、また、他の定義（データ条件、使用するサービス、優先順位）を変更するために下記アイコンを随時使用します。



37. 変更が終了したら、変更内容を保存します。

